平成１９年度　学習プログラム開発事業

現代的な課題に関する学習機会の提供について（２年次）

「モデルとなる家庭教育学級講座」実践事例集

茨城県水戸生涯学習センター

家庭教育学級のさらなる推進に期待を寄せて

今日の社会は少子・高齢化，高度情報化の飛躍的な発展や国際化，地球規模での環境問題の深刻化等，急激な変化をしております。また，子どもたちを取り巻く環境も大きく変化し，規範意識の低下等が叫ばれ，家庭教育力の向上が求められています。

そのような中，平成１８年１２月の教育基本法の改正により「生涯学習の理念」「家庭教育」「学校，家庭及び地域住民等の相互の連携協力」等が，新たに規定され「家庭教育」に関して，「父母その他の保護者は，子の教育について第一義的責任を有するものであって，生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに，自立心を育成し，心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。」と明記されたことは，今日の家庭教育の重要性を示すとともに，社会教育に携わる私たちが，保護者に対して学習の機会や情報提供等，家庭教育に関する支援を積極的に展開していかなければならないと強く考えております。

茨城県水戸生涯学習センターでは「学習プログラム開発事業」として，「モデルとなる家庭教育学級講座」の開発を昨年に引き続き行い，本年度は小学一年生の保護者を対象として講座開発を実施することにし，笠間市教育委員会の御協力により笠間市立笠間小学校，笠間市立友部小学校を実施校として，本事業に取り組むことにしました。

本年度の講座開発の視点としては，各講座の開設にあたり「乳幼児期」「少年期」における学習内容の重点化を図るために，学習内容を８項目に分類して学習効果を高めることにしました。また，両校で実施する講座に希望者が自由に参加できる「選択制家庭教育学級講座」の導入や両校の保護者の企画運営による「合同家庭教育学級講座」の開設，さらには講座参加者を対象学年の保護者だけに限定せず，他学年や他校の保護者の希望者にまで枠を広げるなど弾力性に富んだ講座開発を行い，両校で合計１３回の講座を実施いたしました。

今回，開発いたしました講座内容を「モデルとなる家庭教育学級講座実践事例集」として発行するにあたり，本事例が各市町村教育委員会で実施しております家庭教育学級の開設及び運営等に「笠間モデル」として参考となりますとともに，本県の家庭教育力の向上及び推進につながることを期待しております。

最後ではありますが，本事業実施にあたりまして大変お世話になりました，笠間市教育委員会並びに，両校の皆様に心から感謝を申し上げますとともに，事業の企画・立案及び分析等で，御尽力をいただきました本事業の委員長であります常磐大学坂本登教授をはじめ委員の皆様方に深く御礼を申し上げます。

平成２０年３月

茨城県水戸生涯学習センター管理事務所
所　長　　高　橋　　幸　子

目　　次

Ⅰ　学習プログラム開発の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
　1　テーマ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
　2　テーマ設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
　3　研究の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
　（1）学習プログラム開発委員会の設置・・・・・・・・・・・・・・・・　1
　（2）モデルとなる家庭教育学級講座実施校　・・・・・・・・・・・・・　2
　（3）モデル講座開発の基本的な考え　・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　（4）広報活動について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　（5）講座の運営について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

Ⅱ　家庭教育に関する事前調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
　1　笠間市立笠間小学校，笠間市立友部小学校の保護者アンケートの結果・・・・　3
　2　教育・子育て電話相談事業のデータについて・・・・・・・・・・・・　3
　3　考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅲ　学習プログラム開発の視点　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
　1　家庭教育学級の定義と学習内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
　2　学習期・学習内容の分類について・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
　3　学習プログラム開発の視点　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

Ⅳ　モデルとなる家庭教育学級講座一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・　6

Ⅴ　モデルとなる家庭教育学級講座実践事例・・・・・・・・・・・・・・・　7
　1　笠間市立笠間小学校会場の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
　2　笠間市立友部小学校会場の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
　3　合同家庭教育学級講座の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
　4　両校の少人数グループ討議の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・３６

Ⅵ　成果と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１

Ⅶ　研究を振り返って　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３

Ⅷ　資料等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

Ⅰ　学習プログラム開発の経過

１　テーマ

現代的な課題に関する学習機会の提供について（２年次）

「モデルとなる家庭教育学級講座」

２　テーマ設定の理由

少子高齢化社会の進展，高度情報化の発達と知識社会への移行，産業・就業構造の変化，グローバル化の進展，科学技術の進歩，家庭の教育力・地域の教育力の低下等，近年の社会情勢の変化に対応するため，現代的課題に関する学習機会の提供について調査研究し，新たな学習プログラムの開発を実証的に進めることで，生涯学習の一層の振興を図る。

３　研究の進め方

茨城県水戸生涯学習センター内に学習プログラム開発委員会を設置して，家庭の教育力の向上に寄与するためのモデルとなる家庭教育学級講座を開設し，そのプログラムの有要性を県内の小学校で展開し，実証的に検証する。

本研究は昨年度と同様に，よりよい家庭教育学級講座を目指した新たな試みを取り入れた学習プログラムを立案し，実施していく。

（１）　学習プログラム開発委員会の設置

①　目　的

モデルとなる家庭教育学級講座の設定，講師選任から実施後の結果までを分析及び検証し，テーマに基づく新しいプログラムを開発することを目的とする。

②　組　織

委員長	坂本　　登	常磐大学コミュニティ振興学部　教授
副委員長	栗田　将夫	茨城県水戸生涯学習センター　企画振興課長
委員	永田　仁一	笠間市教育委員会生涯学習課　係長
	三澤　一紀	茨城県水戸教育事務所　社会教育指導員
	志摩　邦雄	茨城県県北生涯学習センター　事業Ⅱ課長
	鈴木　保幸	茨城県鹿行生涯学習センター　社会教育主事
	三輪　　均	茨城県県南生涯学習センター　社会教育主事
	山崎　　健	茨城県県西生涯学習センター　社会教育主事
	和田　雅彦	茨城県水戸生涯学習センター　社会教育主事

③　開　催

第１回　平成１９年　５月３０日　事業の趣旨説明，日程・内容の検討
第２回　平成１９年　６月１２日　モデル講座の原案作成・決定
第３回　平成１９年　８月２６日　モデル講座視察，検証（笠間公民館）
第４回　平成１９年 9月21日(笠間小学校)・9月28日(友部小学校) モデル講座視察，検証
第５回　平成１９年１１月１６日　モデル講座の分析，評価，課題検討
第６回　平成１９年１２月２０日　まとめ，報告書作成計画
第７回　平成２０年　１月２９日　報告書作成

（２）　モデルとなる家庭教育学級講座実施校

①　実 施 校　　○笠間市立笠間小学校　１年生保護者（１２０名）
　　○笠間市立友部小学校　１年生保護者（１１８名）

②　期　　間　　平成１９年６月から平成１９年１２月まで

③　講座回数　　各校７回

④　実施時間　　１回９０分程度

⑤　家庭教育に関する事前調査の実施

ア　実施対象　　笠間市立笠間小学校，笠間市立友部小学校の１年生保護者全員

イ　実　　施　　平成１９年５月１７日（木）～５月２０日（日）

ウ　回　　収　　平成１９年５月２１日（月）

エ　集　　計　　平成１９年５月２５日(金)

オ　分　　析　　平成１９年５月３０日(水)

（３）　モデル講座開発の基本的な考え

①　家庭教育に関する事前調査から必要とされる学習課題を設定する。

②　茨城県水戸生涯学習センターで実施している「教育・子育て電話相談事業」の平成１８年度相談概要（相談件数）を検討し，学習要求課題を設定する。

③　平成１８年度学習プログラム開発事業で開発した学習内容を参考にする。

④　今回の家庭教育学級講座は，参加形態を選択制とする。《両校の保護者は実施校の講座（全１３回）に参加できる。》

⑤　笠間市立笠間小学校と笠間市立友部小学校の両校企画運営による「合同家庭教育学級講座」を開設する。

⑥　各講座とも参加者の討議及び情報交換の場を設定する。

⑦　各講座は，実施校の他，市内の保育所（園），幼稚園，小学校，中学校の保護者の参加も可能とする。特に，「合同家庭教育学級講座」の実施にあたっては，家庭教育の普及推進を図るために県内各市町村の担当者へも事業案内を行う。

⑧　講座内容については，学習プログラム開発委員会で協議し，実施校の委員とさらに検討して決定する。

⑨　各講座の内容，参加者の状況調査等を分析し，実践事例集を作成する。

（４）広報活動について

①　実施校・・・・・・・・・・・・・該当校において全学年にも情報を提供する。

②　笠間市教育委員会・・・・・・・笠間市内の保育所（園），幼稚園，小学校，中学校に情報を提供する。

③　茨城県水戸生涯学習センター・・県内の各市町村及び報道機関に情報を提供する。

（５）講座の運営について

講座の運営には，主体性を持つことと円滑に進行できることを考慮し，両校の家庭教育学級役員（保護者）が行う。

① 事前・・・広報や保護者への呼びかけ，会場準備等
② 当日・・・受付，進行，講師接待，講師紹介，謝辞，開閉会式の辞，記録等
③ 事後・・・アンケートの配付，回収，会場後片付け等

Ⅱ 家庭教育に関する事前調査

1 笠間市立笠間小学校，笠間市立友部小学校の保護者アンケートの結果(資料１，Ｐ４５）

2 教育・子育て電話相談事業のデータについて（資料２，Ｐ４７）

3 考察

（１）笠間市立笠間小学校，笠間市立友部小学校の保護者アンケートから

① 本年度，笠間小学校と友部小学校で行った事前調査では，８６％の保護者が家庭での「子育て」「しつけ」が「とても大切だ」と回答し，残り１４％の保護者も「大切だ」と回答した。

その中の内容としては，「思いやりの心の育て方」（９５％）や「基本的生活習慣の定着のさせ方」（８７％）で高い数値が見られた。

② 保護者が「子育て」「しつけ」に関する情報は主に「友人・知人（７９％)」や，「家族・親族（７６％)」から得ている。

家庭教育学級や研修会等と回答した保護者は２０％であった。

③ 「子育て」や「しつけ」に関する学習会があれば参加したいと回答した保護者は６４％であった。(「参加したい　５９％」「とても参加したい　５％」)

④ 「子育て」や「しつけ」についての自由記述では，次のような悩みや不安が記されている。

ア テレビ番組の影響による暴力的な態度や言葉遣いをやめてほしいが，子ども同士のコミュニケーションには必要なのかも知れないと思い，テレビを見せていること。

イ どこまで口を出せばよいのか，どこまで手伝ったらよいのか，迷うことがある。

ウ 基本的生活習慣がなかなか身に付かず，毎日同じ注意をしている。

エ ゲームや遊び等，時間が守れない。注意すれば反抗する，泣いて騒ぐ。どうすれば素直に時間を守り，言うことをきいてくれるのか。

オ 子育てをしていて，とてもイライラしてしまい子どもにあたってしまう。もっと手助けをしてくれる人がいてくれたらと思う。

カ 仕事をしている私はあまり時間がないので，つい手を出してしまう。自分のことは自分でできるようしつけたいのだが，見守ることができない。

キ 世間では，いじめや親の虐待が騒がれているが，子どもには人を思いやる気持ちや言葉遣い等，基本的な人間性を育てていきたい。

ク 子どもとのコミュニケーションの難しさを感じる。ついついしかってばかりいてイライラしてしまう。わがままな子どもに時々悩んでいる。

ケ しかり方の難しさを痛感している。感情的に怒ってしまったり，手をあげてしまったり，自己嫌悪に陥ってしまう。

コ 食べ物の好き嫌いが多い。食育について話をききたい。

（２）教育・子育て電話相談事業のデータから（家庭教育に関わる意識について）

茨城県水戸生涯学習センターが実施している教育・子育て電話相談事業の平成１８年度相談概要では，１年間で３，２３３件の相談が寄せられている。

その中で最も多かった相談内容は「習慣・しつけ・育児」相談の８５７件であり相談内容としては全体の約２７％の割合を占めている。

「習慣・しつけ・育児」の相談対象年齢は，小学生低学年対象のものが最も多く２４０件で２８％である。続いて幼児対象のものが２０２件で約２４％，３番目は小学生高学年対象のものが１２１件で約１４％の順となっている。

以上のことから，親の家庭教育における学習内容と主な課題として「習慣・しつけ・育児」が挙げられる。このことを念頭に置き，各講座の学習課題を設定していくことが必要である。

Ⅲ　学習プログラム開発の視点

１　家庭教育学級の定義と学習内容

（「家庭教育学級の開設および運営について」昭和４６年 文部省社会教育局長通知）

（１）家庭教育学級の定義

家庭教育学級とは，親等が家庭教育に関する学習を，一定期間にわたつて計画的，継続的かつ集団的に行う事業をいうこと。

（２）家庭教育学級の学習内容

①　乳幼児期

親と子のふれ合いを通じて，情緒の安定をもたせ，基礎的な生活習慣をしつけ，自然や生物を愛護する心をつちかい，遊びを通して対人関係における自制力や危険から身を守る能力を身につけさせること。

②　少年期

親と子のふれ合いを通じて，子どもの心身の発達に即して，ものの感じ方・考え方の基本を育成し，遊びを通して自律性や協調性をつちかい，健康・安全についての能力を身につけさせること。とくに，この期においては，学校教育や社会教育との関連のなかで，子どもの進路，適性，男女の交際，地域における集団活動等に配慮すること。

③　青年期

親と子のふれ合いを通じて，客観的に自己をみつめる力，敬けんの念，節度ある行動，生活と勤労に対する真剣な態度を身につけさせること。とくに，子どもが成人として独立するために必要な知識・技術を習得させること。

なお，乳児の家庭教育についての学習は，婚前期，新婚期，妊娠期などから準備的に行なわれるよう配慮すること。

２　学習期・学習内容の分類について

（１）家庭教育学級の学習期

「家庭教育学級の開設および運営について」(昭和４６年 文部省社会教育局長通知)では,当面重視すべきおもな学習内容を乳幼児期,少年期,青年期の３つの学習期に分けていることから,今回の「モデルとなる家庭教育学級講座」では企画の参考とした。

（２）家庭教育学級の学習内容の分類

今回の学習プログラムを開発するにあたっては，その対象は原則として小学校第１学年の保護者とした。

小学校第１学年（６歳から７歳）の年齢は，社会教育審議会答申（昭和４６年）によれば「少年」にあたるが,「少年」の中でも初期にあたり，心身の発達等から鑑みても乳幼児期と密接な関わりがあると考えられる。よって，今回の学習期を「乳幼児期の後半から少年期の前半」と位置づけた。さらに学習内容をより明確にするため「乳幼児期」「少年期」の２つの学習期の学習内容から今回重点とする内容を８つの学習項目に分類した。(資料３，Ｐ４８参照)

３　学習プログラム開発の視点

（１）内容構成

子どもたちの生活のために必要な習慣や自律心の育成，さらに心身の調和のとれた発達を図るために，前述の８項目の学習分類を全部網羅した学習内容構成とする。

また，各講座の実施にあたっては，事前に８つの学習分類とその中の重点内容を講師に十分伝え，講座の中でそれらを重要内容として取り上げてもらい，より効果のある内容構成にする。

笠間市立笠間小学校，笠間市立友部小学校の事前調査と，茨城県水戸生涯学習センターで行っている教育・子育て電話相談事業のデータも十分に参考にし，家庭教育学級の学習内容をより明確化する。

（２）選択制の導入

保護者は，日程や会場，講座の内容等を自ら選択し，両校で実施する家庭教育学級講座に参加することができる。

（３）合同による学習機会の設定

笠間市立笠間小学校と笠間市立友部小学校の両校で開設する学級を両校の家庭教育学級役員による企画運営で合同家庭教育学級講座として実施する。

（４）情報の提供と主たる参加対象者以外の参加者の受け入れ

県民への現代的課題に関する学習機会の提供と，家庭教育学級の一層の推進を図るため，講座受講にあたっては，実施校の他，笠間市内の保育所（園），幼稚園，小学校，中学校等の保護者等へ情報を提供し，各講座への参加を可能とする。

Ⅳ　モデルとなる家庭教育学級講座一覧表

回	重点内容	笠間市立笠間小学校会場	重点内容	笠間市立友部小学校会場
1	① ② ⑧	【講義・情報交換】 「振り返ってみませんか，家庭の在り方を！」 講師 笠間市教育委員会教育長 飯島 勇 【親子給食・情報交換】	① ② ③ ⑤ ⑧	【講義・情報交換】 「思いやりの心を育てるために」 講師　つくば国際短期大学教授 臨床心理士　　浅野　房雄 【体験学習】 「親子でストレッチ体操を楽しもう」 講師 友部接骨院院長　　坪松　徹
2	① ② ③ ⑥	【講義・情報交換】 「思いやりの心を育てるために」 講師 茨城県精神保健協会会長 臨床心理士　　中原　弘之	① ② ⑧	【講義・情報交換】 「振り返ってみませんか，家庭の在り方を！」 講師 笠間市教育委員会教育長 飯島 勇
3	① ② ④ ⑤ ⑥ ⑧	【合同家庭教育学級講座】（笠間公民館会場） 「子どもの成長，その喜びと悩み」 コーディネーター　水戸女子高等学校校長　鈴木　康之 シンポジスト　茨城大学教育学部附属幼稚園副園長　福田　洋子 シンポジスト　家庭教育に関する特別相談員　臨床心理士　根本　葉子 シンポジスト　家庭教育に関する相談員　源栄　英夫 【情報交換】		
4	④ ⑥ ⑦ ⑧	【少人数グループ討議・情報交換】 「子育てのための井戸端会議」 講師 家庭教育関係相談員 川上　　勉 小島　たき子 冨山　　憲	④ ⑥ ⑦ ⑧	【少人数グループ討議・情報交換】 「子育てのための井戸端会議」 講師 家庭教育関係相談員 川上　　勉 小島　たき子 冨山　　憲
5	③ ⑤ ⑥ ⑦	【講演会】 「地球のステージ」 講師 NPO法人「地球のステージ」代表理事 精神科医　桑山　紀彦	① ② ③ ⑥ ⑧	【親子給食・情報交換】 講師 友部小学校主任栄養係長 矢代　紀津子 【親子歯みがき教室】 講師　茨城県歯科衛生士会（４名）
6	① ② ③ ⑤ ⑧	【講義・情報交換】 「子どもたちの心と身体」 講師 笠間市社会教育指導員 川嶋　よね子	③ ⑤ ⑥ ⑦	【体験学習・情報交換】 「三世代・親子ふれあい昔遊び会」 講師 祖父母，保護者ボランティア
7	② ④ ⑥ ⑦	【講義】 「社会の宝としての子育て」 講師 笠間日動美術館事務局長 中原　昭 【情報交換】	② ④ ⑥ ⑦	【講義】 「社会の宝としての子育て」 講師 土浦日本大学高等学校校長 程塚　洋 【情報交換】

※重点内容についてはＰ４８参照

Ⅴ　モデルとなる家庭教育学級講座実践事例

1　笠間市立笠間小学校会場の取組

第１回講座「振り返ってみませんか，家庭の在り方を！」
　笠間市教育委員会教育長　飯島　勇

第２回講座「思いやりの心を育てるために」
　茨城県精神保健協会会長　中原　弘之

第５回講座「地球のステージ」ＮＰＯ法人「地球のステージ」代表理事　精神科医　桑山　紀彦

第６回講座「子どもたちの心と身体」
　笠間市社会教育指導員　川嶋　よね子

第７回講座「社会の宝としての子育て」
　笠間日動美術館事務局長　中原　昭

（1）笠間市立笠間小学校会場第１回

実　施　日	平成１９年6月7日（木）１０：００～１２：５０	
テ　ー　マ	「振り返ってみませんか，家庭の在り方を！」	
学習分類 （P４８参照） ○印は今回 の重点内容	①　情緒の安定をもたせる　②　基礎的な生活習慣をしつける 3　自然や生物を愛護する心をつちかう　4　対人関係における自制力を身につける 5　危険から身を守る能力を身につける　6　ものの感じ方・考え方の基本を育成する 7　自律性や協調性をつちかう　⑧　健康・安全についての能力を身につけさせる	
形　　態	講義，質疑応答，情報交換，親子給食	
講師氏名	笠間市教育委員会教育長　　飯島　勇	
参加人数	笠間小学校１１９名，友部小学校０名　（合計１１９名）	
学　習　の　流　れ		主な内容
１０：００	１　保護者の進行で開会の挨拶等を行う。 （１）ＰＴＡ会長挨拶 （２）家庭教育学級長挨拶 （３）家庭教育学級役員紹介 （４）今後の学習計画について	
１０：２０	２　講義 （１）子どもたちは今 （２）なぜ，子どもたちが変わってきているのか （３）「生きる力」を育てるということ （４）なぜ，「生きる力」なのか （５）一番大切なのは主体性を育てること そのためには・・・ （６）家庭は，子どもと生涯関わるところ	○講師の体験談や様々な事例を基に，子どもの情緒の安定や基礎的な生活習慣の定着に必要な親の心構えや対処の仕方を学んだ。
１１：２０	（７）情報交換及び質疑応答 ３　親子給食	○各担任からの話や親同士の情報交換を通して，健康・安全について考えることができた。
１１：３０ １１：５０ １２：０５ １２：３５	（１）給食の準備 （２）配膳 （３）会食 （４）片付け	
質問内容等	○　講義については特になし。 ○　親子給食については時間がやや短いのではないかという意見があった。	
特記事項	○　講師の体験談や様々な事例から，ねらいとする３つの学習分類にせまることができた。 ○　今回の家庭教育学級講座では，講義に８３名，親子給食に１１９名の参加があった。第１学年の在籍は１２０名なので，非常に高い参加率であった。	

ア　参加者の声

（ア）講義

①　とてもわかりやすい話だった。

②　「生きる力」の意味がわかった。

③　講師の先生の体験に基づいた話がよかった。

④　子ども自身に決定させることが大切だと，改めてわかった。今までは親が何でも決めてしまっていたように思う。

⑤　子どもが「主人公」となれるよう，家庭でも気をつけて子育てをがんばりたい。

（イ）親子給食

①　とてもよかった。毎年実施したい。

②　１つの机に親と子ども両方の給食を乗せるのは狭いと思う。

③　全員が白衣着用は暑いのではないか。

イ　事業の成果及び考察等

①　最初の家庭教育学級講座でもあり事前に学校及び家庭教育学級役員と約１０回程の打合せや電話連絡を行い，本事業の内容確認を行った。その中の一つ，「実施対象者は笠間小学校，友部小学校の第１学年の保護者とするが，他学年，他校（保育所（園），幼稚園，小学校，中学校）の関係者の参加も可能とする」については，今回実施できなかった。原因としては，実施計画が遅くなってしまい，他学年及び他校等への広報活動が不十分だったことがあげられる。次回は笠間市内の保育所（園），幼稚園，小学校，中学校などに呼びかけを行い参加者を募りたい。前半の講義では笠間小学校第１学年の保護者８３名の参加があった。

②　飯島先生に，「振り返ってみませんか，家庭の在り方を！」をテーマに，今の子どもたちの特性，大人社会の変化，社会全体の共通の目標の消失，生きる力の必要性等について講話していただいた。

③　飯島先生自身の体験も交え，身近で親しみやすい内容だったため，参加者は言葉の一つ一つにうなずきながら熱心に聞き入っている姿が見られた。特に重点内容①「情緒の安定をもたせる」②「基礎的な生活習慣をしつける」③「健康安全についての能力を身につけさせる」の３つについては，「生きる力」についての具体的な話を通して明確化を図ることができた。

④　講義への参加者は８３名，親子給食の参加者は１１９名と高い参加率であった。

⑤　親と子の活動を組み合わせることで，多くの参加者を得ることができた。このことは今後の企画の参考になる。

⑥　後半の親子給食については１１９名の参加があり，講座に対する関心の高さがうかがわれた。

⑦　親子給食では，参加者の９６％が親子での給食を体験できたことが良かったと回答した。

（２）笠間市立笠間小学校会場第２回

実　施　日	平成１９年７月５日（木）１０：００～１１：３０	
テ　ー　マ	「思いやりの心を育てるために」	
学習分類 （Ｐ４８参照） ○印は今回 の重点内容	①　情緒の安定をもたせる　②　基礎的な生活習慣をしつける ③　自然や生物を愛護する心をつちかう　4　対人関係における自制力を身につける 5　危険から身を守る能力を身につける　⑥　ものの感じ方・考え方の基本を育成する 7　自律性や協調性をつちかう　8　健康・安全についての能力を身につけさせる	
形　　態	講義，情報交換	
講師氏名	茨城県精神保健協会会長　　中原　弘之	
参加人数	笠間小学校８９名，友部小学校３名，市内小学校から５名　（合計９７名）	
学　習　の　流　れ		主な内容
１０：００	１　保護者の進行で開会の挨拶等を行う。 （１）主催者挨拶 （２）学校長挨拶 （３）学級長挨拶	
１０：１３ １０：４５ １１：１２	２　講義 （１）導入の部 ①　現代の子どもについて ○　実体験の不足 ○　ストレスの多い生活 ○　情緒が安定しない ②　思いやりの心について ○　ＤＮＡの解明 ○　チンパンジーと人とのちがい ○　子どもに良いモデルをみせる （２）情報交換の部「親モデル　昔と今」 ①　何が問題なのか ②　どうすればよいのか （３）総括の部 ①　子どもを信頼する ②　信頼していると伝える	現代の子どもの問題点について様々な実例から学ぶことができた。 グループに分かれ話し合うことで，情報交換が活発化し，情緒の安定や基礎的な生活習慣の定着等，重点とする学習分類についての話し合いが深まった。 総括の部では，ものの感じ方・考え方の基本について考えることができた。
１１：３０	３　保護者が謝辞及び閉会の挨拶を行う。	
質問内容等	○　子どもに手をかけすぎている。どこまで手を出してよいのか。 ○　子どもにも親にも余裕がない。どうしたらよいか。	
特記事項	○　講義の中に情報交換の部を取り入れたため，参加者同士の話し合いが活発に行われ重点とする学習分類の内容をより一層高めることができた。 ○　講座の開催にあたって，笠間市内全ての保育所（園），幼稚園，小学校，中学校に笠間小・友部小で行う家庭教育学級講座のチラシを配布した。 ○　今回の家庭教育学級講座では９７名の参加者があった。その内の８名は友部小学校を含む他の小学校，保育所からの参加であった。	

ア　参加者の声

①　中原先生の講義を初めて聞いた。話が具体的でとてもわかりやすかった。

②　初めての参加だが，皆の意見が聞けてとても参考になった。出席してよかった。

③　グループでの話し合いの場があったのがよかった。解答があるわけではないが，同じ悩みのお母さんたちと子育てについての話をしたり聞いたりして，少しほっとした。

④　中原先生の講義の中で，「みちくさ」をとりあげていたが，家族で公園に行ったり，散歩の時などゆっくりした時間を過ごさせたいと思った。

⑤　中原先生のお話の中で，「はやくしなさい，まだできないの」というのはあまり好ましくないということだが，まさに現在の私の姿である。反省し，親子で思いやりの心がもてるように心がけていきたい。

⑥　とてもためになる話であった。親の敷いたレールの上を歩かせるのではなく，見守ることが大切ということを改めて学んだ気がする。今日から子どもに対する接し方が変わりそうだ。

⑦　グループの話し合いもよかったが，もっと中原先生の専門的な話をたくさん聞きたかった。

イ　事業の成果及び考察等

①　講義では，中原先生に，「思いやりの心を育てるために」をテーマとして次の３つに分けて講話をしていただいた。

〇導入の部　〇情報交換の部　〇総括の部

②　導入の部では，今の子どもたちには実体験が不足しているということが話された。

参加者は真剣に講義に聞き入っていた。

③　情報交換の部では約１０名の少人数グループに分かれ意見を出し合った。

④　笠間小学校の家庭教育学級役員８名が各グループのリーダーとなった。事前に話し合いの進め方を打合せしておいたため，どのグループも活発な話し合いが行われた。

⑤　総括の部では講師の中原先生から，「子どもを信頼してほしい。そして，信頼しているということを子どもに伝えてほしい。」という話があった。

⑥　本事業は，実施校の他に他校の希望者も参加できるように枠を広げた。今回，笠間小学校以外の保育所，小学校から８名の参加があった。このことは，数的にはわずかではあるが，その意義は大きく，これからの家庭教育学級が目指す一つのモデルとなるものと考えられる。

⑦　今後は，情報提供の在り方を研究し，効率的で効果的な手法の開発が望まれる。

⑧　情報交換の中で，高学年の子を持つ保護者が，低学年の子を持つ保護者に適切なアドバイスをしている姿が見られた。学年の枠を超えた家庭教育学級講座の在り方を再考したい。

⑨　重点内容⑥「ものの感じ方・考え方の基本を育成する」については，子どもたちの実体験の不足やストレスの多い生活等，具体的な話を通して課題にせまることができた。

⑩　参加者が参考になったと回答した重点内容は，⑥①②③の順であった。

教育の今日的課題を一つ一つ解決するためには，家庭教育学級を充実させる必要があることを保護者自身が理解することができたと思われる。

学校としても，小学校１年生の保護者を主な対象とした家庭教育学級の位置付けを明確にし２年生以降の学年ＰＴＡ等の内容についてビジョンをもって計画的に進めていく必要があることを理解することができた。

それぞれの講座の内容について，保護者の考えを活かす場がなかったことが課題であったと思われる。計画立案の段階から，保護者が参加できるシステムを構築できるとよいと思われる。

（笠間市立笠間小学校校長　海老原　丈夫）

（3）笠間市立笠間小学校会場第５回

実　施　日	平成１９年１０月２４日（水）１４：００～１６：００	
テ　ー　マ	「地球のステージ」	
学習分類 （Ｐ４８参照） ○印は今回 の重点内容	1　情緒の安定をもたせる　　2　基礎的な生活習慣をしつける ③　自然や生物を愛護する心をつちかう　　4　対人関係における自制力を身につける ⑤　危険から身を守る能力を身につける　　⑥　ものの感じ方・考え方の基本を育成する ⑦　自律性や協調性をつちかう　　8　健康・安全についての能力を身につけさせる	
形　　態	講演会，情報交換	
講師氏名	ＮＰＯ法人「地球のステージ」代表理事・精神科医　　桑山　紀彦	
参加人数	笠間小学校３３５名，友部小学校０名，市内小学校から３名　（合計３３８名）	
学　習　の　流　れ		主な内容
１４：００	１　保護者が開会の挨拶及び講師紹介を行う。	
	２　「地球のステージ」　～国境を越えて～ （１）回想篇 （２）カンボジア篇 （３）イラン震災篇 （４）パレスチナ篇 （５）旧ユーゴスラビア篇 （６）故郷篇 ３　保護者による謝辞	○世界の様々な国で暮らしている人々の紹介や，難民キャンプの様子，診療所が復興する話等を歌と映像で伝えた。 ○自然や生物を大切にする気持ちを学ぶことができた。
１６：００	４　保護者が閉会の挨拶を行う。	
質問内容等	○　質問は特に出されなかった。	
特記事項	○　映像と歌と講師の話から，自然や生物を愛護する心の大切さが伝わってきた。 ○　パレスチナでの地域紛争の話等からも，重点とした学習内容について十分な学習ができた。 ○　今回の家庭教育学級講座は学校行事と併せており，全学年対象である。 ○　昨年度より継続しており，保護者だけでなく全児童も一緒に参加した。 ○　ＰＴＡ本部からの案内や呼びかけもあり，たくさんの参加者があった。 ○　市内の小学校から３名の参加者があった。	

ア　参加者の声

①　その日の夜に子どもたちと話しました。１年生の次女からは「本当の事なんだね。泣けちゃうよ。」と言う言葉が聞かれました。きっと自分たちの周りの温もりを感じられたのだと思います。感謝します。地球のステージに参加した事で我が家では，自分が嫌だと思った事を人にしない，嬉しい事には，「ありがとうと感謝しようね」と教えています。その意味をわかってくれた時間でした。

②　日本は平和で恵まれていることを改めて感じました。今の子ども達も何か考えるきっかけになればよいと思いました。

③　内容が比較的難しいと思いますので，保護者は全学年通じてよいが児童は高学年（４～６年）に絞って参加させた方がよいのではないかと思います。

④　発達年齢を考慮して，トイレ休憩が途中にあるとよいと思いました。内容はいろいろと考えさせるものでありよかったと思います。

イ　事業の成果及び考察等

①　今回の家庭教育学級講座は，家庭教育学級役員と笠間小学校ＰＴＡ本部役員との連携協力により，著名な講師を招き講演会形式で行った。

②　大画面での映像と音楽，そして桑山先生の語りによるステージ構成は斬新であり，参加者は児童と一緒に時折感嘆の声を上げていた。特に２００枚を越えるスライドには，世界各地で起こっている地域紛争や貧困等の様子が生々しく写されており，地雷で片足をなくしてしまったカンボジアの少年等，衝撃的なものも含まれていた。しかし，その中でたくましく生きている人々を講師が「友だち」として紹介しながら話が進むため，悲惨さよりも明るく前向きに生きていこうとする気持ちが伝わってきた。

③　講師から，「歯をくいしばって生き抜いて，外の世界を見てほしい。そしてたくさんの旅をしてまた戻ってきてほしい。そのとき，笠間のよさがわかるから。」というまとめの言葉があった。参加者は大きくうなずき，たくさんの拍手が送られた。

④　反省点として，ステージの途中にたくさんの児童がトイレに立ったことが上げられる。アンケートからも４９％の参加者が長かったと答えている。

⑤　講座の内容が低学年の児童には理解が難しい面があったと思われるので，参加者を高学年と保護者にする等，改善していく必要がある。

⑥　今回の講座では，たくさんの参加者が共通体験をすることができた。アンケートの自由記述にも，家庭で子どもとのコミュニケーションが深まったことが記されていた。このことから今回の重点内容について，③「自然や生物を愛護する心をつちかう」や⑥「ものの感じ方・考え方の基本を育成する」また，⑤「危険から身を守る能力を身につける」や⑦「自律性や協調性をつちかう」の課題にせまることができた。

⑦　参加者が参考になったと回答した重点内容は⑥③⑦⑤の順であった。

（4）笠間市立笠間小学校会場第６回

実　施　日	平成１９年１１月２０日（火）１０：３０～１２：００	
テ　ー　マ	「子どもたちの心と身体」	
学習分類 （Ｐ４８参照） ○印は今回 の重点内容	①　情緒の安定をもたせる　②　基礎的な生活習慣をしつける ③　自然や生物を愛護する心をつちかう　4　対人関係における自制力を身につける ⑤　危険から身を守る能力を身につける　6　ものの感じ方・考え方の基本を育成する 7　自律性や協調性をつちかう　⑧　健康・安全についての能力を身につけさせる	
形　　態	講義，質疑応答，情報交換	
講師氏名	笠間市社会教育指導員　　川嶋　よね子	
参加人数	笠間小学校５５名　　友部小学校０名　　合計５５名	
学　習　の　流　れ		主な内容
１０：３０	１　保護者が開会の挨拶及び講師紹介を行う。	
１０：３５	２　講義 （１）挨拶のもつ意味 （２）「子どもたちの心と身体」について ①　子どもの情緒の安定をもたせるためには ○ 情緒とは ○ スキンシップが大事 ○ 甘え→安心感→意欲→自立 ②　基礎的な生活習慣をしつけるために ○ 生きる力の基 ○ 教育方針をしっかりもつこと ○ あなた言葉，わたし言葉 ○ 耐えること，待つことができる親 ③　自然や生物を愛護する心をつちかうために ○ 体験活動を多くもつことが大切 ○ 子どもの感性を共有できる親 ④　危険から身を守るために ○ 自分の命は自分で守れる子に育てる ⑤　健康・安全についての能力 ○ 早寝，早起き，朝ごはん （３）まとめ 野口雨情の親の愛について	○自作の絵を提示することで，挨拶の大切さを学んだ。 ㋐あかるく ㋑いつでも ㋒さりげなく ㋓つづける ○学習分類で示した５つの内容について，身近な事例を参考に学ぶことができた。 ○子どもとふれあうことの大切さや，親の役割について再認識を図り，学習のまとめとした。
１１：５５	３　保護者が謝辞及び閉会の挨拶を行う。	
質問内容等	○　質問は特に出されなかった。	
特記事項	○　第１学年以外の保護者４名の参加があった。 ○　父親の参加が２名あった。	

ア　参加者の声

① 身近な話題が聞けてとてもよかったです。また，参加したいです。

② 親としてはっとさせられるお話でした。今までのことを振り返りながら，これからも前向きに子どもたちに接したいです。

③ 子どもたちも大きくなってきましたが（中３，小４），もう一度子育ての基本を先生から学び考えさせられました。とても嬉しいです。有難うございました。

④ 実体験をもとに話されたことにとても共感しました。子どもたちの心と身体の為にもがんばりたいと思いました。とても参考になり，参加してよかったです。

⑤ あいさつなど，基本的なあたり前に思われるような生活習慣を改めて見直さないといけないと感じました。先生の人柄を感じさせられるよいお話でした。子どもの甘えがとても大事なことで，私たちにとって忙しいときなどどうしても子どもの甘えにつきあえないことが多かったと反省しました。

⑥ 最後のシャボン玉の歌がとてもよかった。

イ　事業の成果及び考察等

① 川嶋先生の実体験に基づいた話と子どもと遊ぶための手作りのふうせんやタオル等，実物を提示することで説得力のある講話となった。

② 事前打ち合わせを綿密に行い，意図する学習内容について川嶋先生と共通理解を図ることで，今回のねらいである５つの重点内容のほとんどを参加者に十分伝えることができた。アンケートからも９８％の保護者が「とてもよかった」あるいは「よかった」と回答している。特に全員で歌を歌った後は涙ぐむ保護者の姿も見られた。アンケートの残りの２％は無記入である。

③ 質疑応答の時間を設けたが質問は出なかった。司会の質疑応答に対する呼びかけ方や時間配分についても工夫・改善していく必要があると感じた。

④ １１月の中旬で，かなり部屋が寒かったので，通知を出すときに防寒着の着用を呼びかけたり，暖房器具の用意も考えなくてはいけない。

⑤ 参加者が参考になったと回答した重点内容は①③②⑧⑤の順であった。

他の学校の家庭教育学級へも自由に参加できる。この話をはじめて聞いたときに家庭教育学級の担当者としては「それはいいことだ。」と素直に思った。しかし，実際には他の学校にまで行って，話を聞くということはなかなか難しい。家庭教育学級を運営している保護者の方々と話をしてみると，よりよくしていくためには企画を立案している側の小さな工夫の積み重ねが大切であることに気付く。

よほどの有名人でない限り，講師の肩書きや名前だけで人は集まらない。講演に参加した人は結果として「よかった。」という感想を残してくれるが，よい講師であればこそ，そのよさをいかに前もって知らせて参加者を集められないのか等，保護者からの言葉は実に的を得ており，まだまだ我々に改善の余地があることを教えてくれる。

笠間市では，来年度は他の学校等にも自由参加型の家庭教育学級を広めていきたいと考えているが，今年度の学習プログラム開発事業の成果と課題を生かして，よりよい学習内容となるよう，それぞれの家庭教育学級への関わりを深めていきたい。

（学習プログラム開発委員　永田　仁一）

（５）笠間市立笠間小学校会場第７回（閉級式）

実　施　日	平成１９年１２月１３日（木）　９：４５～１０：４５	
テ　ー　マ	「社会の宝としての子育て」	
学習分類 （Ｐ４８参照） ○印は今回 の重点内容	1　情緒の安定をもたせる　② 基礎的な生活習慣をしつける 3　自然や生物を愛護する心をつちかう　④ 対人関係における自制力を身につける 5　危険から身を守る能力を身につける　⑥ ものの感じ方・考え方の基本を育成する ⑦ 自律性や協調性をつちかう　8　健康・安全についての能力を身につけさせる	
形　　態	講義，質疑応答，情報交換	
講師氏名	笠間日動美術館事務局長　　中原　昭	
参加人数	笠間小学校１７名　　友部小学校２名　　合計１９名	
学　習　の　流　れ		主な内容
９：４５	１　保護者が開会の挨拶及び講師紹介を行う。	
９：５０	２　講義 （１）家庭教育の重要性 （２）授業参観の３つのねらい （３）教育は「人を信頼すること」で成り立つ （４）ものの感じ方・考え方の基本を教える （５）こんな子どもに育てたい （６）ふれあいの大切さ	○親の役割と心構え，人を信頼することの大切さ，正しい判断のできる子に育てるための基本等について学ぶことができた。 ○全１３回の家庭教育学級講座のまとめの講義となった。
１０：４５	３　笠間小学校家庭教育学級閉級式の開催 （１）主催者挨拶 （２）学校長挨拶 （３）学級長挨拶	
質問内容等	○　「今回の中原昭先生の講座に参加して子育てをがんばろうという気持ちが湧いてきた。」「今まで子どもをあまり褒めることができなかったので，これからはたくさん褒めてあげようと思った。」等の感想があった。	
特記事項	○　第１学年以外の保護者４名の参加があった。 ○　笠間小学校以外の小学校から２名の保護者の参加があった。	

ア　参加者の声

① 「子どもは母親で決まる」と中原先生がおっしゃいました。聞いていて「ハッ」とさせられました。私が健康で，明るく，元気でなくてはいけないんですね。私が忙しくてイライラしている時に特に激しい兄弟げんかをしている事に気づかされました。私の気持ちが映るのでしょうね。反省しています。

② 先生のお話は楽しく，そして感動しました。とても勉強になりました。

③ とても身近なお話で，わが子と比べるとまさにその通りのお話でした。先生のお話と口調もとても面白くてよかったです。

④ 子どもをもっとたくさんほめてあげようと思いました。

⑤ 子育てをしていく上で，まず母親が心身ともに丈夫であることが大切であると思いました。今まで以上に子どもとのスキンシップ，会話等に時間をかけたいと思いました。

⑥ とてもわかりやすいお話でした。実践できることからやっていきたいと思います。

実施校，市教委及び当委員会で今日的課題を抽出・整理し，課題解決に向けたプログラムを作成する過程自体が，家庭教育学級プログラムの企画･運営に留まらず，今後の生涯学習関連講座を実施する上で大変参考になるものであった。また，その過程に学習（教育）的要素を多分に含んでおり，家庭教育学級に携わる保護者の方々にとっても良い機会になったと思う。今後，合同家庭教育学級や少人数グループ討議等の講座形式によるモデル講座を県内各地域で実施し，知識と経験を積み上げる仕組みと窓口が完備されれば，家庭教育学級の企画･運営に携わる方々への支援システムとなると期待している。私自身，この委員会でプログラム開発に携わることによって，循環を起こすプログラムや課題解決型の講座企画を体験する貴重な機会を得ました。プログラムの実施主体である笠間市立笠間小学校，友部小学校，笠間市教育委員会，当委員会の取りまとめを行った水戸生涯学習センター及び委員長の坂本 登教授には，大変お世話になりました。この場を借りて，心より謝意を表します。

（学習プログラム開発委員　志摩　邦雄）

イ　事業の成果及び考察等

① 中原先生の講義は，一貫して家庭教育の重要性を説いており，特に人を信頼することの大切さや正しい判断ができる子に育てるための基本，また，家庭教育での主体は母親であり子どもにとって母親の存在がいかに大切か等，自身の豊富な経験を基にしたすばらしい内容であり，最後には参加者全員に「自信をもって子育てをしてほしい。」と締めくくった。参加した保護者は講師の言葉に時折涙ぐみ，うなずきながら真剣に聞き入っていた。

② 質疑応答の時間では，２名の保護者から意見や感想等が発表された。

③ アンケートでは，本講座の内容について１６名中９名（５６％）が「とてもよかった」と答え，７名（４４％）が「よかった」と答えている。このことから，回答者全員が本講座について満足したことが読みとれる。

④ 時間配分については１０名（６３％）の参加者が「ちょうどよかった」と答えているが，「短かった」という意見も５名（３１％）あった。笠間小学校では１週間前にも持久走大会等学校行事を実施しており，２週連続で長い時間参加するのは難しいとの考えから，講義の時間を約６０分としたが，内容の豊富さから考えて１時間３０分の講義時間を確保すべきであった。学校行事と家庭教育学級をどのように組み合わせていくか，あるいは切り離していくか等，今後の課題としたい。

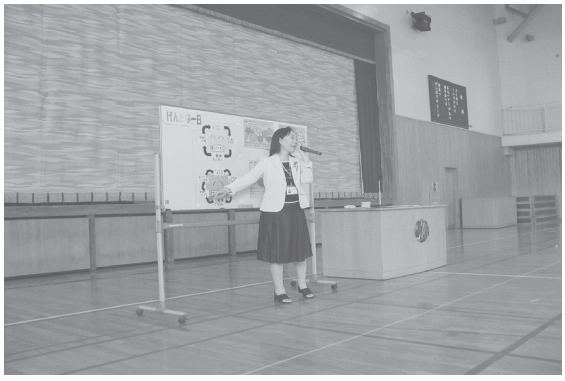
⑤ 事前打ち合わせで講師と共通理解を図ることで，今回のねらいである②「基礎的な生活習慣をしつける」④「対人関係における自制力を身につける」⑥「ものの感じ方・考え方の基本を育成する」⑦「自律性や協調性をつちかう」の４つの重点内容について話をしてもらった。特に「人を信頼することの大切さ」という具体的な話を通して重点内容の明確化を図ることができた。

⑥ 参加者が参考になったと回答した重点内容は⑥②④⑦の順であった。

2　笠間市立友部小学校会場の取組

第１回講座
第１部「思いやりの心を育てるために」
　つくば国際短期大学教授　浅野　房雄
第２部「親子でストレッチ体操を楽しもう」
　友部接骨院　院長　坪松　徹

第2回講座「振り返ってみませんか，家庭の在り方を！」
　笠間市教育委員会教育長　飯島　勇



第５回講座「親子給食」
　友部小学校主任栄養係長　矢代 紀津子

第5回講座「親子歯みがき教室」茨城県歯科衛生士会

第６回講座「三世代・親子ふれあい昔遊び会」
　祖父母，保護者ボランティア

第７回講座「社会の宝としての子育て」
　土浦日本大学高等学校校長 程塚 洋

（1）笠間市立友部小学校会場第１回

実　施　日	平成１９年6月２７日（水）９：００～１１：２０
テ　ー　マ	第１部「思いやりの心を育てるために」 第２部「親子でストレッチ体操を楽しもう」
学習分類 （Ｐ４８参照） ○印は今回 の重点内容	①　情緒の安定をもたせる　　②　基礎的な生活習慣をしつける ③　自然や生物を愛護する心をつちかう　4　対人関係における自制力を身につける ⑤　危険から身を守る能力を身につける　6　ものの感じ方・考え方の基本を育成する 7　自律性や協調性をつちかう　　⑧　健康・安全についての能力を身につけさせる
形　　態	講義，情報交換，体験学習
講師氏名	つくば国際短期大学教授　　浅野　房雄　（講義） 友部接骨院院長　　坪松　　徹　（体験学習，ストレッチ体操）
参加人数	友部小学校９９名，笠間小学校３名，その他５名　（合計１０７名）

学　習　の　流　れ		主な内容
９：００	【第１部】家庭教育学級開級式	○赤毛ザルの実験の話等を通して情緒の安定のためにはスキンシップが大切なことを学んだ。 ○幼児期の発達課題は基礎的な生活習慣を身につけること。そのためには口出しは最小限に，との話があった。 ○小動物や植物の世話等，具体例を挙げ，自然や生物を愛護する心について学んだ。 ○よく食べ，よく動き，よく眠るという健康３原則の話の後親子でストレッチ体操を行った。
	1　保護者が開会の挨拶及び進行を行う。	
	2　主催者挨拶	
９：０５	3　講義　「思いやりの心を育てるために」	
	（1）情緒の安定をもたせるために	
	（2）基礎的な生活習慣をしつける	
９：５５	（3）自然や生物を愛護する心について	
	4　質疑応答	
	5　保護者が謝辞を行う	
	6　年間活動予定	
	7　学校長挨拶	
	8　役員紹介	
１０：１０	9　第１部の終了	
	【第２部】	
１０：２０	1　保護者が第２部の開会の挨拶を行う。	
	2　体験学習　「親子でストレッチ体操を楽しもう」	
	（1）子どもの身体（健康３原則）についての話	
	（2）親子で行うストレッチ体操	
	3　質疑応答	
	4　保護者が謝辞を行う。	
１１：２０	5　保護者が閉会の挨拶を行う。	

質問内容等	○　待つことができず，すぐ口を出してしまう。どうしたらよいか。 ○　兄弟げんかが多い。何かよい方法はあるか。
特記事項	○　重点内容では，情緒・生活習慣・愛護する心の３つについては浅野先生から話があり，健康・安全，危険から身を守る能力の２つについては坪松先生から話されたことで，学習がより一層深まった。

ア　参加者の声

第１部　講義

①　手や口を出しすぎてはいけない。子どもを信じて待つこと，子どもがやるまで待つことが大切だということが分かった。内容が具体的で分かりやすかった。

②　小動物や植物を子どもと一緒に育てることは，思いやりの心を育てることにつながること，思いやりの心を育てるものは日常生活にたくさんあるということが分かった。

③　兄弟げんかは人とのつきあいを学ぶ場だということが分かった。

④　もう少し時間が長ければ，いろいろな事例が聞けてよかった。

第２部　体験学習

①　とても楽しく身体を動かすことができた。

②　家庭でも親子で簡単にできるのでやってみようと思う。

③　久しぶりに体を動かすことができて気持ちがよかった。

④　親子でふれあって遊ぶことが少ないので新鮮で楽しい時間だった。

家庭教育学級は，家庭が本来果たすべき役割を改めて見つめ直す機会となるよう，児童・生徒の保護者が家庭教育の意義と役割，そして，その具体的な手段等を学んだり，子育てやしつけに関する不安や悩みを解消する場です。各学校では，毎年様々な形態で家庭教育学級を進めていますが，ついマンネリ化してしまうなどの問題を抱え，次年度の計画時には頭を悩ましているのが現状ではないでしょうか。

今年度，この家庭教育学級の開発事業ということで，２校合同で行い，一般参加も可能であるシンポジウムや，保護者の生の声が飛び交う少人数でのグループ討議を目の当たりにし，家庭教育学級の原点に触れたような気がしました。このような素晴らしい内容が，実践事例集として県内の教育関係諸団体の皆様の手に渡ることは，今後の家庭教育学級推進の一助となることは間違いないと確信しています。今後さらに，多様な取り組みの様子が発信されることを望んでおります。

（学習プログラム開発委員　山崎　健）

イ　事業の成果及び考察等

①　本事業は，家庭教育学級を一つの学校だけで行うのではなく，他校の参加者を受け入れるところに特徴がある。今回，友部小学校以外の小学校，幼稚園，保育所から８名の参加者が見られた。

②　浅野先生の講義は，①情緒の安定，②基礎的な生活習慣，③自然や生物を愛護する心の３つについて，話が進んだ。終始穏やかな，温かい雰囲気の中で講義が行われ，先生の言葉一つ一つにうなずきながら聞く保護者も多数見られた。

③　講義の最後に行った質疑応答では，２名の保護者から質問があった。どちらも身近な問題で，浅野先生から的確な回答があり，新しい知識を共有できたことはとてもよかった。特に車のクラクションを鳴らす時の気持ちを例に上げ，「親は子どもを信じる。信じ続けることができれば，口を出さずに待つことができる。」という話は，子育ての基本と考える。

④　体験学習では，坪松徹先生のご指導で，親子でストレッチ体操を行った。参加者からは，様々なストレッチを通して親子のふれあいができたと好評であった。このような実際に親子でふれあう講座も今後積極的に取り入れていきたい。

⑤　今回の講座では，講義によって重点内容①②③を，体験学習によって重点内容⑤⑧を保護者に十分伝えることができた。

⑥　参加者が参考になったと回答した重点内容は①②⑧③⑤の順であった。

（２）笠間市立友部小学校会場第２回

実　施　日	平成１９年７月３日（火）１２：３０～１３：４０	
テ　ー　マ	「振り返ってみませんか，家庭の在り方を！」	
学習分類 （Ｐ４８参照） ○印は今回 の重点内容	①　情緒の安定をもたせる　②　基礎的な生活習慣をしつける 3　自然や生物を愛護する心をつちかう　4　対人関係における自制力を身につける 5　危険から身を守る能力を身につける　6　ものの感じ方・考え方の基本を育成する 7　自律性や協調性をつちかう　⑧　健康・安全についての能力を身につけさせる	
形　　態	講義，質疑応答，情報交換	
講師氏名	笠間市教育委員会教育長　　飯島　勇	
参加人数	友部小学校６８名，笠間小学校０名，その他２名　（合計７０名）	
学　習　の　流　れ		主な内容
１２：３０	１　保護者が開会の挨拶及び進行を行う。 （１）友部小学校長挨拶 （２）家庭教育学級長挨拶 （３）講師紹介	
１２：４０ １３：３０ １３：３８	２　講義 （１）子どもたちは今 （２）なぜ，子どもたちが変わってきているのか （３）「生きる力」を育てるということ （４）なぜ，「生きる力」なのか （５）一番大切なのは主体性を育てること そのためには・・・ （６）家庭は，子どもと生涯関わるところ ３　質疑応答 ４　謝辞	○講師の体験談や様々な事例を基に，子どもの情緒の安定や基礎的な生活習慣の定着に必要な親の心構えや対処の仕方を学んだ。 ○主体性を育てるために，自分で選択，決定させることや，自己充実感を持たせること，主人公になる体験をさせる等の話があった。
１３：４０	５　保護者が閉会の挨拶を行う。	
質問内容等	○　高学年の子どもをもつ保護者から，学校での勉強の仕方や受験についての質問が出された。 ○　笠間市女性ネットワークの方から「個人の価値観」についての質問が出された。	
特記事項	○　講師の体験や様々な事例を通して，重点とする３つの学習内容のそれぞれについて学習を深めることができた。 ○　質疑応答では２名の参加者から質問を受けた。 ○　笠間小学校の第１回家庭教育学級講座と同じ内容を実施することで，日程や時間の都合が悪く笠間小学校の講座に参加できなかった人にも学習する機会を提供することができた。	

ア　参加者の声

① 講義を聞くことで，普段の子育てや生活を振り返り，反省したり考えたりすることができ有意義な時間を過ごすことができた。わが子に「生きる力」を育てることができるよう日々意識していきたい。

② 身近なテーマでとてもわかりやすく，参考になった。指示をなるべくしないで子どもが自ら行動していける力をつけられるようにしていきたいと思った。

③ 毎日の生活の中で見過ごしていたことに気づかされた。反省した。

④ 子育ての中で，命令，指示，禁止などが多い気がした。主体性を持つことができるように，子どもを信頼していきたいと思う。

⑤ 子どもに対する接し方がとても参考になった。子どもが多いので，子どもたちから学ぶことがいっぱいある。怒らずに認めて受け入れて大らかに子育てをしていきたい。

⑥ 主体性を発揮して子どもが間違ったことをしてしまったとき，どう反省してもらうか疑問に思った。

⑦ 参加人数が少ないのが残念であった。

県内のすばらしい先生方を講師としてお迎えして講話が聞けたことは，大変勉強になった。

進行表等もいただき，だれでも進行ができたこともよかった。また，委員の打合せの時間ももてたので運営がスムーズにできた。

合同家庭教育学級講座はコーディネーターの先生の進め方がすばらしく，子育てのヒントがたくさん得られたと思う。

少人数グループ討議では参加者が少なかったが，かえって親密に話ができてよかった。もっと時間があったら，グループを移動して，もう一つのちがうテーマで話し合いができるとよかった。

講座の時間設定が難しいと思った。特に合同家庭教育学級講座は夏休みの最終日曜日だったので参加しづらいと思った。

（笠間市立友部小学校 家庭教育学級長 後藤　みどり）

イ　事業の成果及び考察等

① 「振り返ってみませんか，家庭の在り方を！」をテーマに，今の子どもたちの特性，大人社会の変化，社会全体の共通の目標の消失，生きる力の必要性等について講義を聞くことができた。

② 飯島先生の体験も交え身近で親しみやすい内容が多く，参加者も熱心に聞き入っていた。

③ 家庭教育学級役員の発案で，イスを半円に並べた。会場は広い体育館であったが，イスを半円に並べることで親近感が出て，参加者から温かい雰囲気でとてもよかったという感想が多数あった。

④ 講義の後，質疑応答の時間を設けたところ，２名の方から質問があった。アンケートでは参加者の８６％が質疑応答がよかった，あるいはとてもよかったと答えている。

⑤ 今回は，開級式の一週間後であったため，人数が集まるか心配されたが，全体で７０名の参加があった。他の小学校からも２名の参加があった。

⑥ 他校からの参加があり，本事業の取り組みが少しずつではあるが笠間市内の保護者の間に浸透してきている。

⑦ 今回の友部小学校の第２回家庭教育学級講座は，笠間小学校で行った第１回家庭教育学級と同じプログラムを採用した。日程が合わず，第１回目に参加できなかった笠間小学校の保護者が，友部小学校の日程なら参加できる場合を想定して計画したが，残念ながら笠間小学校からの参加者はなかった。

⑧ 今回の講座では，笠間小学校第１回と同じに「生きる力」についての具体的な話を通して重点内容の明確化を図ることができた。

⑨ 参加者が参考になったと回答した重点内容は②①⑧の順であった。

（3）笠間市立友部小学校会場第５回

実　施　日	平成１９年１０月１２日（金）１１：３０～１４：１５
テ　ー　マ	「親子給食」「親子歯みがき教室」
学習分類 （Ｐ４８参照） ○印は今回 の重点内容	①　情緒の安定をもたせる　②　基礎的な生活習慣をしつける ③　自然や生物を愛護する心をつちかう　4　対人関係における自制力を身につける 5　危険から身を守る能力を身につける　⑥　ものの感じ方・考え方の基本を育成する 7　自律性や協調性をつちかう　⑧　健康・安全についての能力を身につけさせる
形　　態	講義，質疑応答，情報交換，実技
講師氏名	友部小学校主任栄養係長　矢代　紀津子 茨城県歯科衛生士会　秋山　孝子　内田　由美子 鈴木　祐子　宮本　洋子
参加人数	友部小学校１１７名　（合計１１７名）

学　習　の　流　れ		主な内容
１１：３０	1　保護者が開会の挨拶及び進行を行う。 （1）学級長挨拶 （2）学校長挨拶	
１２：００	2　講義（望ましい食習慣について） （1）友部小学校の学校給食 （2）食育とは （3）学校における食育の目指すもの （4）食育のキーワード （5）子どもの食育における家庭の役割 （6）質疑応答 3　親子給食（配膳，会食，後片付け）	○主任栄養係長矢代先生から，望ましい食習慣についてわかりやすく話していただいた。食育を通して，重点とする学習分類に迫ることができた。
１３：１０	4　親子歯みがき教室（クラスごとに分かれて実施） （1）講師指導 ①歯のみがき方と清掃具 ②６歳臼歯のむし歯予防 ③質疑応答 （2）実践指導 ①染め出し ②仕上げみがき ③質疑応答	○各教室ごとに歯科衛生士の話と実技指導があった。親子で行うことで，情緒の安定や生活習慣の定着に結びつく有意義な講座となった。
１４：１５	5　保護者が閉会の挨拶を行う。	

質問内容等	○　歯ブラシの選び方や，子どもがいやがらない仕上げみがきの仕方等について質問が出された。
特記事項	○　親子給食には栄養士を，親子歯みがきには歯科衛生士を講師とすることにより，重点とする学習内容をより一層高めることができた。 ○　当日４年生が校外学習であることを利用したため，食器や食材を別に用意することなく親子給食を実施することができた。

ア　参加者の声

（1）親子給食

①　子どもの給食を食べる様子をみて，家族で注意しなければいけない事などがいろいろとわかりました。また，朝食などは一皿料理になりがちでしたので，これからはスープやデザートを付けるなどバランスに気をつけていきたいと思います。

②　味付けは薄味だけれども，しょうがや辛子など香辛料をうまく使ってありおいしかったです。子どもがおいしそうに楽しく食べている様子を見て安心しました。

③　とてもおいしくいただきましたが，おはしがすべりやすく，物をつかみにくく感じました。子どものおはしだけでも使いやすい物だといいと思いました。

（2）親子歯みがき教室

①　仕上げみがきがまだまだ必要だとは知ってはいても，なかなか実行できない毎日でした。しかし，歯を縦方向でみがくことや奥の歯をみがく事は子どもにとってはなかなか難しいことだと実感しました。今後毎日時間をつくってやっていこうと思います。

②　とても楽しい講師の先生で，おろそかにしていた子どもの仕上げについて改めて考えました。

③　テンポの良いお話で子どもたちも楽しみながら聞くことができたと思います。

イ　事業の成果及び考察等

（1）今回の家庭教育学級講座は，前半は親子給食，後半は親子歯みがき教室という２つのプログラムを連続して行った。小学校低学年の保護者にとって，食事や歯みがきは大きな関心事であり，参加率も１００％と充実した講座となった。

（2）親子給食について

①　児童と保護者が会食するには教室では狭いため，４クラスとも家庭科室や図書室等，特別教室を使った。どのクラスも家庭教育学級役員の手際のよい準備と進行で楽しく会食できた。

②　当日は４年生が校外学習のため，食器等を補充することなく親子給食が実施できた。

（3）親子歯みがき教室について

①　小学１年生は永久歯（６歳臼歯）の出そろう年齢でもあり，この時期に歯科衛生士の話を聞いて，自分でしっかりみがくことができるようになることはとても重要である。その意味でも，保護者が自分の子どもをきちんと理解し，歯みがきについて正しい知識を得ることは大変大きな意義があると思われる。

②　４名の歯科衛生士はそれぞれ，大きな歯の模型や歯ブラシ，手作りのアニメの絵等，子どもたちの興味関心をひく準備をたくさんしており，わかりやすく楽しく，とても充実した講座となり，課題とした①「情緒の安定をもたせる」②「基礎的な生活習慣をしつける」③「自然や生物を愛護する心をつちかう」⑥「ものの感じ方・考え方の基本を育成する」⑧「健康安全についての能力を身につけさせる」の重点内容にも十分せまることができた。

③　参加者が参考になったと回答した重点内容は②⑧⑥①③の順であった。

（４）笠間市立友部小学校会場第６回

<table>
<tr><td>実　施　日</td><td colspan="2">平成１９年１１月２１日（水）９：００～１０：２０</td></tr>
<tr><td>テ　ー　マ</td><td colspan="2">「三世代・親子ふれあい昔遊び会」</td></tr>
<tr><td>学習分類
（Ｐ４８参照）
○印は今回
の重点内容</td><td colspan="2">1　情緒の安定をもたせる　　2　基礎的な生活習慣をしつける
③　自然や生物を愛護する心をつちかう　　4　対人関係における自制力を身につける
⑤　危険から身を守る能力を身につける　　⑥　ものの感じ方・考え方の基本を育成する
⑦　自律性や協調性をつちかう　　8　健康・安全についての能力を身につけさせる</td></tr>
<tr><td>形　　態</td><td colspan="2">体験活動，情報交換</td></tr>
<tr><td>講師氏名</td><td colspan="2">祖父母，保護者ボランティア</td></tr>
<tr><td>参加人数</td><td colspan="2">友部小学校　８２名　祖父母４９名　　合計１３１名</td></tr>
<tr><td colspan="2">学　習　の　流　れ</td><td>主な内容</td></tr>
<tr><td>９：００</td><td>１　開会式
（１）はじめの言葉
（２）家庭教育学級長の挨拶
（３）活動についての説明
（４）おわりの言葉</td><td></td></tr>
<tr><td>９：１５</td><td>２　活動
<table><tr><th>番号</th><th>あ　そ　び</th><th>番号</th><th>あ　そ　び</th></tr><tr><td>①</td><td>お手玉</td><td>⑦</td><td>めんこ</td></tr><tr><td>②</td><td>あやとり</td><td>⑧</td><td>わなげ</td></tr><tr><td>③</td><td>こままわし</td><td>⑨</td><td>ゴムとび</td></tr><tr><td>④</td><td>けん玉</td><td>⑩</td><td>はないちもんめ</td></tr><tr><td>⑤</td><td>ふくわらい</td><td>⑪</td><td>おりがみ</td></tr><tr><td>⑥</td><td>かるた</td><td>⑫</td><td>かんぽっくり</td></tr></table></td><td rowspan="2">○子どもたちは４人のグループで行動し自分たちで選んだ昔遊びを体験する。
○１５分ごとに，次の活動に移る。
○保護者は子どもたちのサポートを行うと共に，子どもと一緒に昔遊びを体験する。
○祖父母は子どもたちに昔遊びを教えたり一緒に遊んだりする。</td></tr>
<tr><td>１０：００</td><td>３　閉会式
（１）はじめの言葉
（２）感想等発表
（３）お礼の言葉
（４）おわりの言葉</td></tr>
<tr><td>１０：１０</td><td>４　後片づけ，解散</td><td></td></tr>
<tr><td>質問内容等</td><td colspan="2">○　それぞれの遊びのコーナーで活発な質問や情報交換が行われた。</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="2">○　今回の事業は友部小学校の第１学年のみを対象に行われたので，他学年，他校からの参加者は募集しなかった。
○　昔遊びという世代を超えた共通の活動や祖父母との交流を通して，参加者は様々な情報交換を行うことができた。</td></tr>
</table>

ア　参加者の声

①　親である私も楽しめました。また，違う年代の方たちとの交流も参考になりました。

②　子どもと楽しく過ごすことができました。輪投げでは点数を計算する様子もみられました。お手玉では祖母の方々がとても上手で「すごいねぇ」と親子で感動しました。

③　なかなか家では遊ばない遊びを教えていただいて，子どもも楽しく遊んでいました。もっと長い時間遊んでいたいような感じでした。他の遊びもまた機会があったら体験させたいと思いました。

④　子どもたちが楽しく生き生きと活動している姿が見られてよかった。１０分くらいの活動にして，あと１つ遊びが増やせたらよかったと思います。ゴムとびが新しい跳び方でビックリしました。

⑤　いつもゲームでばかり遊んでいた子どもがとても生き生きとしていました。友だちと一緒に遊ぶ楽しさや，ルール，協調性等，今日の昔遊び会を通じて大切さを感じました。

参加してとてもよかったと思いました。

どの講座も保護者から好評だった。特に笠間公民館で開催した合同家庭教育学級講座はコーディネーターの人選がすばらしく大変よかった。

「子育てのための井戸端会議」をテーマに実施した少人数グループ討議も意義のある講座であった。会場や講師の人数等，配慮する面は多いが，保護者一人一人が主体的に本音で語り合う場を提供できたことは，今後の家庭教育学級講座の一つのモデルとなると考える。

一方，家庭教育学級講座を毎月開催するとなると，他の学校行事との兼ね合いから，家庭教育学級講座に参加する人数が減ってしまうことがある。保護者のニーズを把握し魅力ある講座を開設するとともに，講座の目的や意義，学習内容を詳しく伝える等，情報提供の仕方についても工夫していきたい。

（笠間市立友部小学校校長　鈴木　裕）

イ　事業の成果及び考察等

①　子どもたちは昔遊びのルールを祖父母や親に教えてもらったり，また，一緒に遊んだりすることで楽しそうに目を輝かせ，実に生き生きと活動していた。祖父母から教わるだけでなく，こま回しやあやとり等は，上手な子が初めての子にやさしく教えてあげる姿等も見られた。

②　保護者も子どもたちと一緒にゴム跳びやはないちもんめ等の昔遊びを楽しんでいた。

③　祖父の一人は，「子どもたちに昔遊びを教えるのはとても楽しい。他の学年や他の学校でも取り組んでほしい。」と話してくれた。また，他にも「折り紙を担当したけれど，折り方を忘れてしまったものがあるので，次はちゃんと教えられるようにしっかり覚えてきたい。」という声が聞かれた。このことから，三世代ふれあい昔遊び会は事業の目的を果たすとともに，子どもと親と祖父母のそれぞれによい効果をあげることができたといえる。

④　活動を通して，順番を守ることの大切さやみんなで仲良く遊ぶことの楽しさを知ることができた。このことは⑦「自律性や協調性をつちかう」や，⑥「ものの感じ方・考え方の基本を育成する」ことの基礎になると考えられることから，重点内容に十分せまることができた。

⑤　参加者が参考になったと回答した重点内容は⑦⑥⑤③の順であった。

（５）笠間市立友部小学校会場第７回（閉級式）

実　施　日	平成１９年１２月４日（火）　１０：３０～１２：００	
テ　ー　マ	「社会の宝としての子育て」	
学習分類 （Ｐ４８参照） ○印は今回 の重点内容	1　情緒の安定をもたせる　② 基礎的な生活習慣をしつける 3　自然や生物を愛護する心をつちかう　④ 対人関係における自制力を身につける 5　危険から身を守る能力を身につける　⑥ ものの感じ方・考え方の基本を育成する ⑦ 自律性や協調性をつちかう　8　健康・安全についての能力を身につけさせる	
形　　態	講義，質疑応答，情報交換	
講師氏名	土浦日本大学高等学校校長　　程塚　洋	
参加人数	友部小学校３１名　　合計３１名	
学　習　の　流　れ		主な内容
１０：３０	１　保護者が開会の挨拶及び講師紹介を行う。	
１０：３５	２　講義 （１）職業を差別する母親 （２）子どもの育つ力 （３）耳と目と心で聴く （４）子どもの居場所，家族の一員（存在の安心） （５）一家団らんの大切さ（たとえ１週間に１度でも） （６）言霊→言葉のエネルギー （お母さんにしかかけられない言葉） （７）ケビンカーターの写真から （８）人に，命にかわりはない，子どもはわが家の宝，社会の宝である	○「社会の宝としての子育て」をテーマに，講師の体験した具体的な事例や用意した資料を基に本講座の目的である基礎的な生活習慣等，４つの重点内容について学んだ。
１１：５０	３　友部小学校家庭教育学級閉級式の開催 （１）主催者挨拶 （２）学校長挨拶 （３）学級長挨拶	
質問内容等	○ 「感動的な話で涙が出てしまいました。」「次回も程塚先生のお話が聞きたい。」「体育館で保護者全員に聞かせたい。」等の感想が聞かれた。	
特記事項	○ ３１名の参加者のうち，約半数の１４名が２年生以上の他学年の保護者であった。 ○ 未就学児を連れた母親が３名いた。	

ア　参加者の声

① 貴重なお話を伺えて本当に参加して良かったと思います。子どもを育てることに愛情と責任は不可欠であると痛感しました。

② わかりやすくすばらしかった。反省もふくめ，これからがんばります。

③ とてもいいお話で涙が出てしまいました。参加して本当によかったです。

④ 言葉の持つエネルギーの大きさを改めて実感することができてよかったです。

⑤ とても心に残るお話がたくさんありました。程塚先生のように子どもを一人一人大事にしてくれる先生がいらっしゃる学校は幸せです。今日は話を聞けてよかったです。

⑥ 子どもの自立を応援しながら時には厳しく，時にはやさしく言葉をかけたいと思います。

⑦ これからの子育てに先生の話を心にとめて役立てたいです。

⑧ 基本的なことである関わり方，生活習慣等，改めて考えさせられました。

今回，「学習プログラム開発委員会」の委員として，プログラム開発に係わることができて大変勉強になりました。また，各回とも各委員さんとの有意義な協議ができて，今後の家庭教育学級の方向性が見いだせました。現代的な課題として，「家庭教育」は誰しもが抱える課題であります。親として通らなければならない道であると同時に，「これ」と言った確信をもって取り組める課題でもありません。そんな中，より多くの保護者の方が安心かつ自信をもって「家庭教育」に取り組むための方策としてプログラム開発に微力ながら少しでもお役に立つことができたような気がします。今後，このモデル事業が地域全体の「家庭教育」へ広がりをみせ，各家庭及び地域全体での健全な青少年育成につながっていくことを期待します。

（学習プログラム開発委員　鈴木　保幸）

イ　事業の成果及び考察等

① 今回の講義は，講師の小中学校，行政での豊富な経験と様々な資料を基にしたすばらしい内容であった。

特に言葉の持つエネルギー（言霊）では，母親にしか言えない言葉を子どもに投げかけてほしい。小学校高学年から中学生になるころ，思春期を迎えた子どもたちには母親の言葉が何よりも大切だとの話が印象的であり，会場では涙を流す保護者もいたほどであった。

② アンケートでは，本講座の内容について８４％が「とてもよかった」と答え，１６％が「よかった」と答えている。また，時間配分についても９２％の参加者が「ちょうどよかった」と答えている。今回の家庭教育学級講座は参加者にとって十分満足できる内容であったことがわかる。

③ 日程が学校行事の持久走大会と重なったため，参加者は３１名であった。その内，１７名は第１学年の保護者で，残りの１４名は２年生以上の他学年の保護者であった。本事業による家庭教育学級講座は，どの学年が参加してもよいというシステムが根付いてきたと考える。

しかし，全体的な参加者数についてはまだまだ十分ではないので，これからも家庭教育学級のより一層の推進に努めていきたい。

④ 「社会の宝としての子育て」をテーマとする具体的な話を通して，重点内容②「基礎的な生活習慣をしつける」④「対人関係における自制力を身につける」⑥「ものの感じ方・考え方の基本を育成する」⑦「自律性や協調性をつちかう」の明確化を図ることができた。

⑤ 参加者が参考になったと回答した重点内容は②⑥⑦④の順であった。

3　合同家庭教育学級講座の取組

「主催者挨拶」
茨城県水戸生涯学習センター所長
高橋　幸子

「学校の枠を越えた取組」

「子どもの本質について」
コーディネーター
水戸女子高等学校校長　　鈴木　康之
シンポジスト
茨城大学教育学部附属幼稚園副園長
福田　洋子

「教育相談の立場から」
シンポジスト
家庭教育に関する特別相談員 臨床心理士
根本　葉子
シンポジスト
家庭教育に関する相談員　源栄　英夫

「一番大切なのは，子育ての原点」

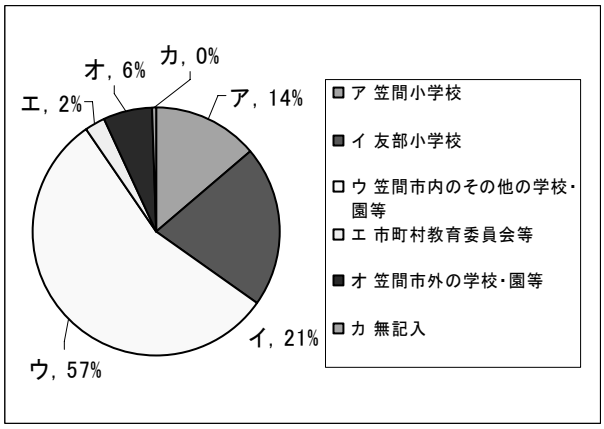
「県内から集まった参加者」

（1）合同家庭教育学級講座の学習内容

実　施　日	平成１９年８月２６日（日）１０：００～１１：３０	
テ　ー　マ	「子どもの成長，その喜びと悩み」	
学習分類 （Ｐ４８参照） ○印は今回 の重点内容	①　情緒の安定をもたせる ３　自然や生物を愛護する心をつちかう ⑤　危険から身を守る能力を身につける ７　自律性や協調性をつちかう	②　基礎的な生活習慣をしつける ④　対人関係における自制力を身につける ⑥　ものの感じ方・考え方の基本を育成する ⑧　健康・安全についての能力を身につけさせる
形　　態	シンポジウム，討議，情報交換，質疑応答	
講師氏名	コーディネーター 水戸女子高等学校校長　鈴木　康之 シンポジスト 茨城大学教育学部附属幼稚園副園長　福田　洋子 家庭教育に関する特別相談員　臨床心理士　根本　葉子 家庭教育に関する相談員　源栄　英夫	
参加人数	笠間小学校３１名，友部小学校５０名，笠間市内の家庭教育関係者１３７名，県内市町村職員等２９名（合計２４７名）	
学習の流れ		主な内容
１０：００	１　開会行事　保護者が開会の挨拶及び進行を行う （１）主催者挨拶 （２）来賓挨拶	
１０：１５	２　シンポジウム （１）講師紹介 （２）シンポジウム ①　各シンポジストから ②　家庭にお願いしたいこと ③　安心して悩むとは ④　子どもの「切れる」について ⑤　モンスターペアレンツ ⑥　「むかつく」子どもに対して ⑦　「いじめ」について ⑧　まとめ （３）質疑応答，情報交換	○コーディネーターから８つの柱立てがあり，それぞれについて各講師からの事例や提言があった。 ・子育ての重要性の焦点付けを図った。
	３　閉会行事　保護者が謝辞及び閉会の挨拶を行う	
質問内容等	○　事前に保護者から「子育て」「しつけ」についてのアンケートをとり，その結果をコーディネーター並びにシンポジスト伝えた。	
特記事項	○　重点とする学習分類を事前に講師に伝えることにより，シンポジウムの中で各講師から，課題に迫る事例や提言をもらうことができた。 ○　市内の保育所（園），幼稚園，小学校，中学校の保護者にチラシを配布すると共に，県内市町村教育委員会職員にも参加を呼びかけた。	

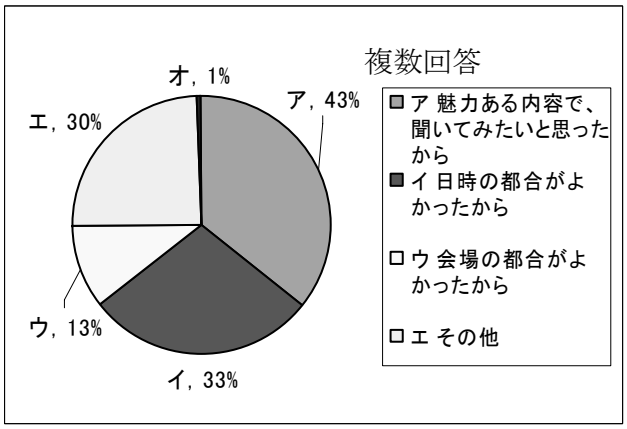
（２）　参加者のアンケート結果（参加者数２５５名　回答者数２０２名　回収率７９％）

①　参加者の所属について。



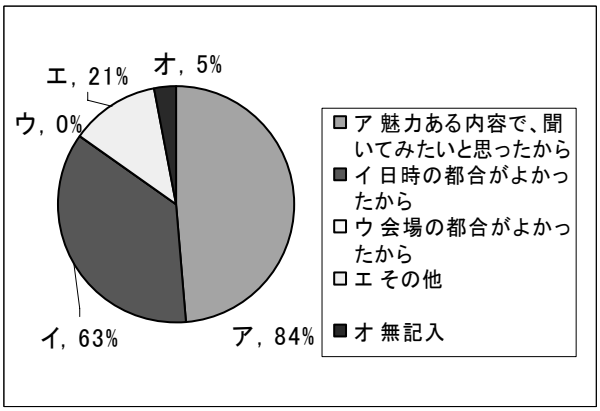
②　参加しようと思ったきっかけは何ですか。

①のア，ウの参加者

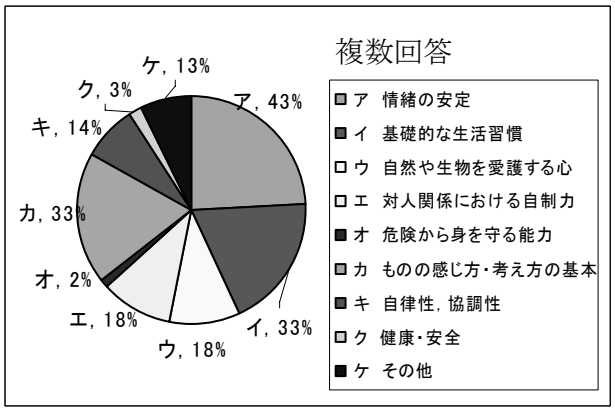


③　参加しようと思ったきっかけは何ですか。

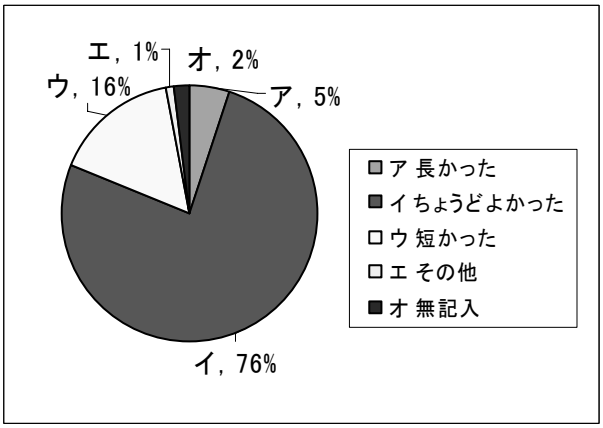
①のエ，オの参加者



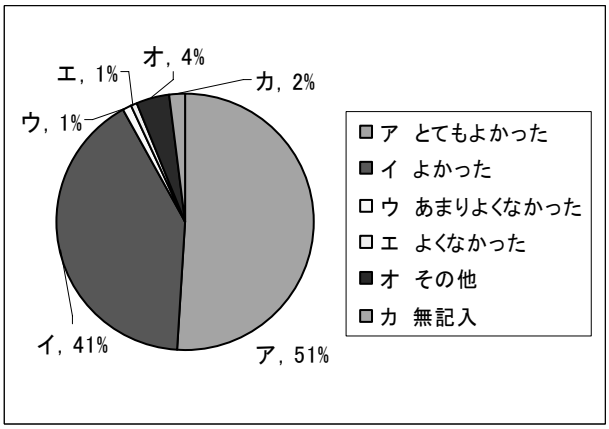
④　どのような内容が参考になりましたか。



⑤　時間配分はどうでしたか。



⑥　シンポジウムはどうでしたか。



（3）参加者の声

ア　笠間小学校の参加者から

①　シンポジウムは初めてでしたがとてもよかったです。鈴木先生のすすめ方もテンポがよく引き込まれるように聞いていました。また参加してみたいです。

②　とてもいいお話を聞くことができました。親のエゴを「あなたのため・・・・」の言葉でかくしていたかもしれません。子ども達と一緒に過ごす時の過ごし方ももう少し考えてみたいと思いました。迷いが生じたときは原点に戻ってみたいと思います。テレビに子守りをさせていなかったか反省したいです。

③　講演会＝講師の先生１人のお話という形で経験したことはありますが，こういったシンポジウムは初めてでしたので，いろいろな分野でご活躍なさった先生方の話が聴けたことがよかったと思います。また司会をなさっていた鈴木先生のお話がとても印象的でした。特に「昔も今も子どもは変わっていない」という言葉には同感です。私も変わったのは大人の方の考え方，周りの環境であると思います。先生のようなリーダーシップを持った方がどんどん社会に現れ自信をもって一人一人の親が子どもと接していければよいと思います。

④　コーディネーターの鈴木先生の立ち回りがとてもよかったです。きれい事だけじゃないディスカッションが聞けたと思います。現代の子育てはとても難しい問題が数限りなくどの家庭でもあると私は思っています。その解決策の１つとして，この様なシンポジウムが生かされるとよいです。私は今日，この時間，この場所にいて皆さんのお話を聞く事ができてとてもよかったです。ありがとうございました。

⑤　シンポジストの先生方が多すぎると思いました。４人の先生方で１時間半は短すぎるのではないでしょうか。時々笑いがもれて，楽しくお聞きすることができました。鈴木先生の講話が，あればお聞きしたいと思います。

⑥　コーディネーターの鈴木先生はユーモアにあふれ，確信させる質問で楽しく話が聞けた。その割りに他の先生方のご意見は何となく理想像であり，今心にしみてもいざ育児の中で毎回心がけていけるかと言うと難しいかなと感じた。でも，シンポジウムの形式は，新鮮で内容的にもよかったと思う。

⑦　（駐車場のこと）駐車場がいっぱいでとめるのが大変だったので，乗り合わせをするように前もって知らせてくれるとよいと思う。今日は思っていた以上にとてもよい話が聞けたと思います。今日はこられてよかったと思います。このようなシンポジウムがまたあるとうれしいです。

イ　友部小学校の参加者から

①　コーディネーターの鈴木先生がすばらしく，お話もわかりやすく聞くことができました。最後の先生のお子さんの誕生のときのお話がすばらしく，涙がでそうになりました。私達親は原点を忘れてはいけない，あの喜びを忘れないように，と思いました。鈴木先生をはじめ他のお話を聞く事ができ，とても参考になりました。ためになる話をありがとうございました。

②　親自身が感動すること，感激することが大切なんですね。子どもと一緒に時間を過ごす，一緒に体験する。分かっているようで忙しさにまぎれて忘れてしまいがち。鈴木先生のお話がまた聞きたいです。今までの講演会と違って「シンポジウム」という形が新鮮でした。

③　今回で３回目の参加ですが，毎回日ごろの子育てに立ち止まり考えさせられる点，また再度確信する点がありとても勉強になっています。コーディネーターの鈴木先生の話をもっと聞きたくなりました。こうしたシンポジウムを聞いたり参加したりすることで自分を見つめ直すことがでるようです。日ごろの子育てでも，自分だけで抱え込むのではなく，夫，家族，友人，地域の人達と関わることがとても大切なような気がします。担当の方々本当にごくろうさまです。

④　どんなに一生懸命育てているつもりでも，いつも自信はなく，反省と自責の繰り返しだったり，私自身が中途半端なので仕方ないとなぐさめてみたり。今日のお話を聞いてきっと皆さんもそうだと思い大変心強い思いがしました。

⑤　安心できる家庭，相談できる相手，自分を見つめる時間が必要と言う話に共感できた。一緒に感動する気持ちを持つ大切さをもう一度見直せた。ふと疲れた夏休みの終わりに自分を落ち着かせることができた。残りの宿題をやさしく手伝って，でも，自立をうながしてやりたい。モンスターペアレンツについてはもっと話を深めて欲しかった。

⑥　内容を期待したのですがあまり新しいお話ではなく残念でした。特に附属幼稚園の先生のお話はよくあるお話で改めて伺うお話ではありませんでした。ゲストの方は附属の先生等一部の選ばれた学校の方ではなく，民間の保育園の先生等今の時代に合うご苦労のお話を伺いたかったです。夏休み最後の日曜日に聞くお話としては，残念です。もっと本音であって欲しいのとズレを感じ参加者が少ないのも納得です。もっと違う方法を考えた方がよいのではないでしょうか？

⑦　出来ればせっかくの先生たちのお話だったので鈴木先生との１対１でのディスカッションして深く聞きたかったです。人数が多い分，話があちこちに飛んでしまって，総括できませんでした。

ウ　実施校以外の保育所（園），幼稚園，小学校，中学校等からの参加者から

①　一方的に話を聞いているだけでなく，それぞれの立場（４人の先生方）の話が聞けたのは，大変興味深いものでした。内容についても身近な話題で，自然に話に入っていけたと思います。

②　保護者の悩みについて一人ずつ先生に意見を述べてもらったのがよかった。小１の子どもをもつ私にとって，まさしく，私自身が聞きたい質問ばかりだったので。
この講座に参加してみて，子どもの成長について改めて考えさせられる時間になりました。

③　シンポジウムの意見を話される方に１名保護者の方が入ると，もっと現況に即したものになったのではないか。内容，意見の同調性が強かった気がします。

④　コーディネーターの鈴木先生の原点に返る・・・というお話，感動しました。涙がでそうになりました。私も常にあの日を忘れずにがんばります。ありがとうございました。

⑤　親は干渉し過ぎないこと，何かあった時など人のせいにしない，頭ではわかっているつもりでいるのですが，このような講習会へ参加し，少し頭を冷やすと言うか落ち着けるよい機会だといつも思います。自分はどうなのか，ゆっくり考えたいと思います。先生方のやりとりも楽しかったです。楽しい中によい話が含まれていてとてもためになりました。

⑥　ＴＶ，ゲーム，いじめの話など身近な話題で大変参考になりました。全保護者にきいていただければよかったと思いました。呼びかけてもなかなか参加してくれる保護者が少なく残念です。

⑦　何度か家庭教育学級の先生方の講話をお聞きした事はありましたが，シンポジウムは初めてでした。話に広がりが感じられ，かつ現実的で分かりやすくとてもよかったと思います。またこのような講座があればぜひ参加させていただきたいと思います。

⑧　年齢は重ねても親子のふれあいの大切さを再認識いたしました。今回のシンポジウム（家庭教育学級講座）に参加でき明日からの仕事に意欲がわいてきました。

⑨　時間的にももう少し長くてもよかったと思う。鈴木先生のお話をもっと聞きたかったです。家庭の大切さに改めて気付きました。ありがとうございました。

⑩　失礼かもしれませんがはっきり意見を述べさせていただきます。この講座に参加している人の多くは，子どもが成長していく上で親としての育児の不安を少しでも解消したくて来ていると思います。鈴木先生がおっしゃっていたように，もっと，シンポジストの先生方の「本音」が聞きたかったです。あたりさわりのない言葉を選んで話すよりも鈴木先生のように「ビシッ」と言ってくれたり，楽しい話を交えて実体験を話してくれた方が参加している私たちにとっては心に残ると思います。シンポジストの先生方ではなく，鈴木先生の話をもっと聞きたかったです。何も分からない素人が生意気な事を言ってしまい申し訳ありません。

⑪　コーディネーター（鈴木先生）の本音でトーク！熱烈と進行して頂き，最後まで講座をじっくり楽しく聞けました。福田洋子先生のお話はとても参考になりました。学校で開かれる講座よりも専門分野の先生方のお話はとてもよかったです。最後は感動の涙でした。ありがとうございました！

エ　県内市町村からの参加者から

①　新しい形の家庭教育学級でしたが，教師にとっても大変参考になりました。特に子どもの心に寄り添うことの大切さを再確認した次第です。休日でしたが参加して本当によかったです。ありがとうございました。

②　なかなかタイムリーな企画であったと思います。話の内容も参考になるものが多くためになりました。

③　時間配分からするとシンポジストは２人でもよかったのではないかと思います。参考になりました。ありがとうございました。

とても有意義な講座に参加させていただきよい研修になった。テーマは「子どもの成長，その喜びと悩み」についてである。特に専門的立場であるシンポジストをコーディネーターが深い見識と経験をもとにして，シンポジストに問いかける内容は，参加者が期待し聞きたいと思っている内容そのものであり，参加者の期待に大いに応えるものであった。

シンポジストの話された内容の中で，過保護，過干渉，放任等の親の不適切な育て方が原因で「キレる子ども」を作っているということ。また，「躾は家庭の文化」であり，親と子のふれあいを基本にした家庭作りが大事であると話された。また，いじめについては，いじめにあった子の支えは，自分は「親に愛されている」という自信を持つことで乗り越えることができ，いじめに負けない大きな力である。といった内容は，子育てを行っている参加者の中で悩みを抱えている方にとっては「一筋の光明」になったと感じた。

（学習プログラム開発委員　三輪　均）

（４）合同家庭教育学級講座の成果及び考察等

① 笠間小学校と友部小学校の家庭教育学級役員が相互に協力し合い，両校合同の家庭教育学級講座を開催することができた。複数の学校で司会や受付等，様々な役割を分担し相互に協力し合う実施方法は，今後の家庭教育学級講座の新しい在り方の一つと考えられる。

② 本事業は，家庭教育学級を一つの学校だけで行うのではなく，その情報を市内の保育所（園），幼稚園，小学校・中学校に提供し，他校の参加者を受け入れるところに特徴がある。今回，笠間市教育委員会の協力で，笠間小学校，友部小学校以外の市内保育所（園），幼稚園，小学校，中学校から１３７名の参加があった。このようなオープンな家庭教育学級講座の実施についても，今後の家庭教育学級の一つのモデルとなるものと考えられる。

③ コーディネーターの鈴木先生をはじめ，シンポジストの福田先生，根本先生，源栄先生の専門分野からの話により円滑にシンポジウムが進められた。各講師と事前打ち合わせを綿密に行うことで内容の柱立てをすることができたことがよかった。

④ 時折，会場から笑いや大きな拍手などがわき起こり，参加者の意欲的な様子が伺えた。メモをとったり，大きくうなずきながら話を聞いている保護者が多く見られた。

⑤ 参加者２４７名の内，２０２名から回答があったアンケートでは「とてもよかった」と回答した人が１０４名（５１％），「よかった」と回答した人が８３名（４１％）であった。時間配分については１５４名（７６％）の人が「ちょうどよかった」と回答している。

⑥ 保護者を参加しやすくするために託児を行った。３歳から小学校１年生までを対象として，事前に受付けをしたところ９名の応募があった。

⑦ 託児では，茨城県水戸生涯学習センター施設ボランティアとの連携を図り，託児室の運営を行った。託児室では子どもたちへの読み聞かせや紙芝居等を行った。託児の年齢制限を３歳から小学１年生までとしたため，会場には３歳未満の子を抱いた母親や，２～３年生と思われる児童が数名参加していた。託児の内容や託児に関する募集の案内等，今後の課題としたい。なお，保険代として１人 100 円徴収した。

⑧ 講師との事前打ち合わせにおいて，笠間小学校，友部小学校両校のアンケートを検討した。そこで「子育て」や「しつけ」に関する悩みや質問を把握することができたため参加者のニーズにあったシンポジウムとなった。

⑨ シンポジウムでは，各講師それぞれの立場から専門的な話がたくさん聞けたことで，重点内容のすべてを参加者に十分伝えることができた。

⑩ 参加者が参考になったと回答した重点内容は，①②⑥④⑧⑤の順であった。

シンポジウム形式の講座や少人数のグループ討議等はとてもよかった。

他校に行くことは抵抗がある。行きやすくするための工夫が必要。合同家庭教育学級講座は会場が公民館だったので他校の保護者は来やすかったと思う。

テーマ設定についてはもっと保護者の興味を引くような工夫が必要。「問題行動をおこさない子どもにするために」等，保護者が不安に思っていることをテーマに置いた方が「聞いてみよう」という気持ちになるのではないか。

この事業にかかわり真剣に家庭教育について考えることができ，よい経験になった。

実施校として笠間小学校を会場としては６回開催したが，全学年対象というのは内容によって無理があると思う。低・中・高学年と区切って対象に合わせた内容を２回ぐらいずつ実施した方が対象者の負担も減ると思う。

（笠間市立笠間小学校 家庭教育学級長　太田　佐登子）

4　両校の少人数グループ討議の取組

笠間小学校会場　グループ１の様子
家庭教育関係相談員　　川上　勉

友部小学校会場　グループ３の様子
家庭教育関係相談員　　冨山　憲

笠間小学校会場　グループ２の様子
家庭教育関係相談員　小島 たき子

友部小学校会場　講師紹介の様子

「グループごとの発表の様子」
笠間小学校会場参加者

「グループごとの発表の様子」
友部小学校会場参加者

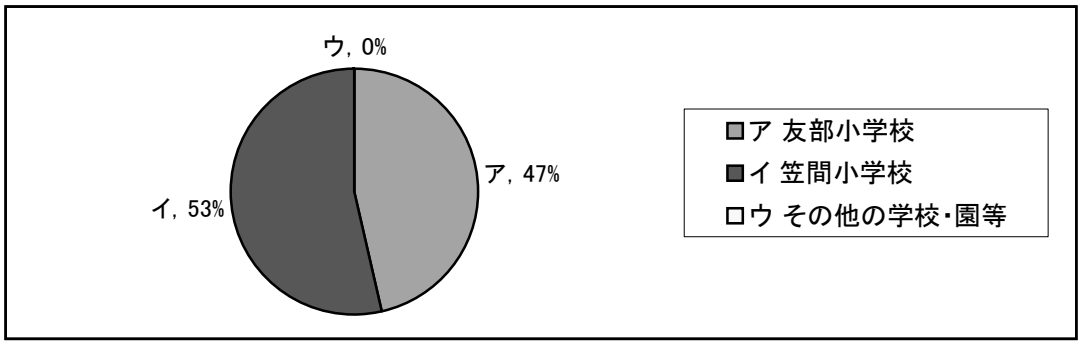
（1）少人数グループ討議の学習内容

実　施　日	笠間小学校会場　　平成１９年９月２１日（金）１３：００～１４：３０	
	友部小学校会場　　平成１９年９月２８日（金）１３：００～１４：３０	
テ　ー　マ	「子育てのための井戸端会議」	
学習分類 （Ｐ４８参照） ○印は今回の重点内容	1　情緒の安定をもたせる　　2　基礎的な生活習慣をしつける 3　自然や生物を愛護する心をつちかう　　④　対人関係における自制力を身につける 5　危険から身を守る能力を身につける　　⑥　ものの感じ方・考え方の基本を育成する ⑦　自律性や協調性をつちかう　　⑧　健康・安全についての能力を身につけさせる	
形　　態	少人数グループ討議，情報交換	
講師氏名	家庭教育関係相談員　　川上　　勉 家庭教育関係相談員　　小島　たき子 家庭教育関係相談員　　冨山　　憲	
参加人数	６３名	
笠間小学校会場	笠間小学校２０名（他学年１名），友部小学校２名，笠間市社会教育指導員３名（合計２５名）	
友部小学校会場	友部小学校２１名（他学年５名），笠間小学校３名，笠間市社会教育指導員３名（合計２７名）	
学　習　の　流　れ		主な内容
１３：００	1　保護者が開会の挨拶及び進行を行う。 （1）学校長挨拶 （2）講師紹介	○グループ１では，対人関係における自制力，自律性，協調性等，グループ２では，ものの感じ方・考え方の基本の育成，グループ３では，健康・安全についてを重点内容として話し合った。 ○少人数のため，一人一人の発言が多くなり，本音で話し合うことができた。
１３：１０	2　少人数グループ討議 （1）グループに分かれる （2）グループ内で自己紹介を行う （3）グループ内で記録者，発表者を決める （4）話合いを行う ＜主な協議題＞ ①「子育て，しつけについて」・・・・・グループ１ ②「思いやりの心を育てるために」・・・グループ２ ③「健康・安全等について」・・・・・・グループ３	
１４：００	3　話し合ったことの発表（各グループの発表者）	
１４：１５	4　講師の先生のまとめの話	
１４：３０	5　保護者が謝辞及び閉会の挨拶を行う。	
質問内容	○　各グループ内で，言葉遣いやテレビの見せ方，偏食や食育等たくさんの質問が出された。	
特記事項	○　参加者の発言回数の増加，意見交換の活発化等を図り，グループの人数を６人から９人の少人数とした。 ○　参加者は，事前に自分の興味関心のあるグループを選択し，話し合いに参加することができたため，討議が活発に行われ，学習の深まりが見られた。	

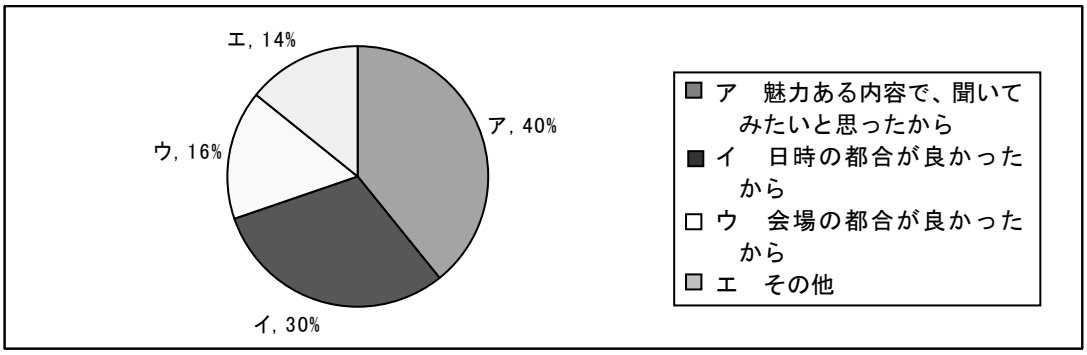
（２）参加者のアンケート結果

（参加者数４６名　（笠間小２２名　友部小２４名）回答者数４３名　　回収率９３％）

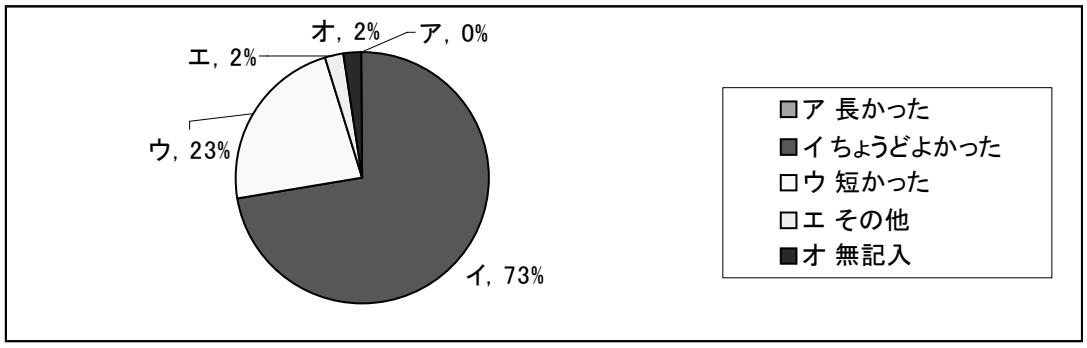
①　参加者の所属



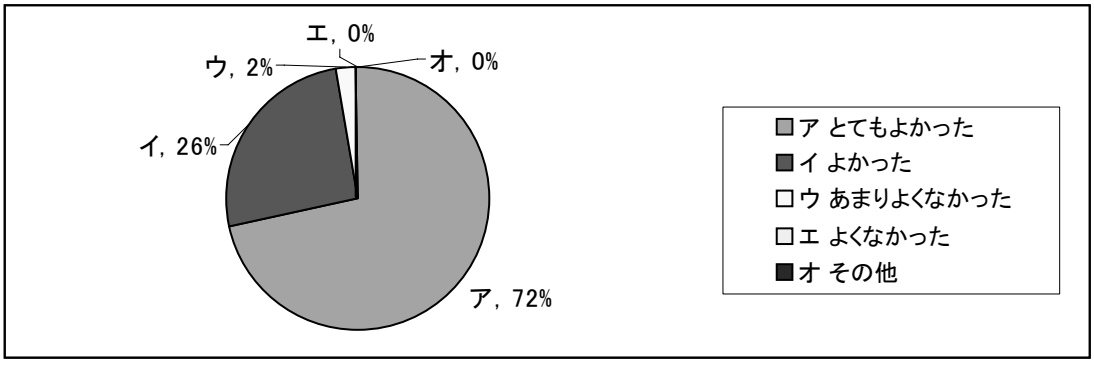
②　参加しようと思ったきっかけは何ですか。



③　時間配分はどうでしたか。



④　グループでの話し合いはどうでしたか。



（3）参加者の声

ア　笠間小学校会場

① 身近な話題からの提案で分かりやすく共感でき，あっという間に時間が過ぎてしまいました。親としては，こういう機会がもっとたくさんあればいいと思います。今回のような機会をまたつくってください。

② 自分と同じ考えのお母さんたちがたくさんいて悩みも一緒に理解，アドバイスをもらえて今後に生かしたいです。

③ 一人で悩んでいても解決できない事でも，ほかの人の意見を聞いて同じだなと思い安心した所もあります。今回はとてもよい話が聞けてよかったです。もっともっと時間がほしかったです。

④ 親として，家族の一員として，自分のあり方などを含め子育てについて考えさせて頂きました。今回参加者が少なかったようですが，とてもよい講座だったと思います。親のつながりや情報交換など，学年を越えてできたらいいですね。係の方々ありがとうございました。

⑤ 先生と直接やりとりできてよかったです。とても参考になることが多く参加してよかったです。

⑥ とても勉強になりました。先生や皆さんのお話が聞けてよかったです。これだけのよい講座なのに参加者が少ないのは残念です。

⑦ テーマに分かれていて分かりやすく聞きやすいのでよかったです。

⑧ 少人数グループ討議でみなさんのお話を聞いてとても子育ての参考になりました。小島先生が経験談等をふくめながら穏やかに進めてくれてとてもよかったです。

イ　友部小学校会場

① 意見交換ができてよかった。各家庭でいろいろ工夫してルールを決めているので，とても勉強になり参加してみてよかった。

② グループごとの話し合いだったし，講師の先生のアドバイスを直接聞けたのでとてもよかったです。

③ いろいろな意見をお聞きして，みんな同じ考えなんだと安心しました。親としてのブレない姿勢をつらぬいていこうと思いました。

④ 気がつくと終わりの時間になっていてあっという間でした。有意義な時間を過ごすことができ，とても参考になりました。

⑤ もっと多くの参加者がいたらよかったのにと思う程とてもよい家庭教育学級講座だと思いました。ありがとうございました。

⑥ 同じ保護者の立場で子育ての悩みを聞き合うことができて，とても参考になった。

⑦ 初めのうちは外の声が騒がしくて話が聞きにくく，よく分からなかったです。個人の話になりがちでグループ討議になりにくかったように思います。しかし，前回笠間小学校で学んだ事も，今回友部小学校で学んだ事も，少しずつ実践していきたいと思いました。

ウ　少人数グループ討議の成果及び考察等

① 通常１名のところ３名の講師を依頼し，一グループ９名以下の少人数グループを実現することができ，参加者から大変好評であった。アンケートからも笠間小学校での参加者２２名中２１名，友部小学校での参加者２１名中２０名が「とてもよかった」，あるいは「よかった」と答えている。残り２名は無記入とその他である。

② このような少人数グループ討議の形式は，今後の家庭教育学級講座の在り方としてこれから重要になってくるものと考えられる。課題としては，たくさんの参加者がいた場合，講師の数も人数に応じて多数必要になることや，話し合いを行う場所の確保等が考えられる。

③ 時間配分に関しては両校で，４３名中３１名がちょうどよかったと答えている。残り１０名は時間が短かったと答えていることから，活発な話し合いがされたことが感じ取れる。

④ 笠間小学校で実施したときには，あるグループでは話が盛り上がり講座が終了した後も席を立たず，自主的な「井戸端会議」が続けられていた。

⑤ 参加者の感想に「いろいろな意見を聞き，みんな同じ考えなんだと安心した。」という言葉があった。話し合いで結論を出すのではなく，様々な意見交換を通して自分自身が納得したり，安心したりできることが一番大切であり，それが家庭教育学級の目的の一つであると考える。

⑥ 友部小学校で実施したときには，父親１名，祖母２名の参加があったが全体として参加者は少なかった。その理由としては，学校行事が重なった要因も考えられるが，一方では，少人数グループ討議は参加者に発言する機会が多く課せられる等，個人的負担が多いと感じ，敬遠されたことも推察される。

⑦ 今回の講座が好評だった理由として次のことが考えられる。

○５月中旬にとった保護者の子育てに関するアンケート調査から３つの課題を取り上げ各グループのテーマとしたことで，保護者の関心の高い協議題を設定することができた。

○参加者が自分の関心のある話し合いに参加できる，希望選択制を取り入れた。

⑧ 高学年の子どもを持つ参加者が自分の体験談を話す場面があり，小学１年生の親はとても参考になった様子である。このことを踏まえ，学年の枠を超えた家庭教育学級講座が企画できないか考えてみたい。

⑨ 今回の講座では重点内容を最初からグループごとに分けて設定した。その結果，グループでの話し合いが「とてもよかった」「よかった」を合わせて９６％となったことは，今後の家庭教育学級講座を企画するうえで参考になる。

少子高齢化を迎え，子どもたちを取り巻く環境や規範意識の低下が一段と深刻化している昨今，「モデルとなる家庭教育学級講座」は，家庭生活での子育てや基礎的な生活習慣のしつけ等保護者のニーズに即した学習機会の場を設けることができた。

今回の事業は，保護者や電話相談による子育てに関するアンケートを調査・分析し，あらゆる角度からアプローチを行った。初めての試みとして県全体に呼びかけた合同家庭教育学級講座の形式は，今後の家庭教育学級講座を計画・推進するうえで大きな示唆を与え，さらに，子育ての年代を幼稚園及び保育園まで広げ，連携の輪を深め合うことができたことは，たいへん意義深い成果が見られた。

少人数のグループ討議は，保護者が講師の先生と共に子育てについて本音で語り合う形式で，子育てをするうえでとても参考になり，悩みや不安等を抱えている保護者にとって，自信と責任感を持たせる「場づくり」ができた。

今後望ましい家庭教育学級の方向性を見いだす手だてとしては，学校及び地域を取り巻く環境整備と課題を明確にし「家庭教育に関する学習機会」を行政側と学校側との連携と密に図られることが急務である。

（学習プログラム開発委員　三澤　一紀）

Ⅵ　成果と課題

1　成果

（1）テーマ設定，学習分類，各講座に関する内容構成等

テーマ設定に関しては，事前アンケートによる保護者の意識や教育・子育て電話相談事業のデータ等を分析し，設定した。また，学習内容に関しては，「家庭教育学級の開設および運営について」（昭和４６年　社会教育局長通知）に基づき，学習プログラム開発委員会が独自に開発した，学習期における８つの項目に分類した重点内容が偏りなく設定され，各市町村で実施する際の指針となった。

講座に関しては，各講座における重点内容を事前に講師に伝え，それらを重要課題として取り上げることにより学習内容を焦点化することができた。

少人数グループ討議では，これまでの受動的な講座から参加者が主体的に関わることのできる自主参加型の講座として今後の家庭教育学級講座の一つのモデルとなる。

（2）講座の運営に関すること

家庭教育学級講座は，それぞれの学習分類に応じた専門の講師が担当しており，講義の内容も好評であった。また，家庭教育学級役員との事前打合せでは，進行表の作成により役員の役割分担も明確にすることができ，円滑に進行することができた。家庭教育学級役員が主体的に講座を運営することにより，家庭教育学級への関心が高まり，それらが同じ保護者である参加者にも伝わり，家庭の教育力の向上が図られた。

事業を実施した笠間市教育委員会では次年度に向け，「モデルとなる家庭教育学級講座」の継続を検討している。

（3）参加者に関すること

選択制家庭教育学級講座という新たな視点で事業を実施したことは，保護者が選択して学習できることにより参加者へ多くの学習機会を提供することができた。

他学年，他校からの参加も可能としたことで，子育てに関心のある県民も参加できたことは今後の家庭教育学級の一つのモデルとなる。

学校が異なっても，同一講座に参加しお互いに持っている「悩み」を共有することができたことは，参加者にとって有意義であった。

講座によっては，学校行事と組み合わせることにより多くの参加者を得ることができた。

（4）合同家庭教育学級講座に関すること

各シンポジストからそれぞれの専門的立場で，家庭における子どもへの接し方，「しつけ」「親の愛」等についての提言があり，参加者は自己の家庭教育について振り返るきっかけとなった。

実施校の事前アンケートをコーディネーター並びにシンポジストに伝えることにより，参加者のニーズに沿ったシンポジウムを開催することができた。

実施校以外の市内の保育所（園），幼稚園，小学校，中学校等の保護者や，他市町村の保護者及び行政関係者の参加が見られた。モデルとなる家庭教育学級の啓発と推進を図ることができた。

（5）少人数グループ討議に関すること

少人数グループ討議での話し合いは，「自分の言いたいことが直接言える」「聞きたいことが直接聞ける」ということもあり，参加者にとって大変好評であった。

今回の講座では，３人の講師が子育てについて参加者に何かを教えるという姿勢ではなく，参加者の意見をうまく引き出すことに主眼を置いたため，どのグループも活発な討議がなされた。

２　課題

（１）テーマ設定，学習分類，各講座に関する内容構成等

各講座のテーマや内容構成について，実施校の担当者や家庭教育学級役員とも十分協議することが必要である。また，学習分類については，今回試みた８項目をさらに精選し，より明確化する等，地域の実態に応じた重点課題を設定することが課題である。

親子のふれあいを深め，しかも持続可能な学習プログラムにはどのようなものがあるか，さらなる開発が必要である。

（２）講座の運営に関すること

学習プログラムの意図について，保護者と共通理解を図る場の設定が必要である。学習プログラム開発委員会に保護者代表が参加する等，新たな工夫を取り入れていくことも課題である。

市町村における民生委員や主任児童委員，保健師，青少年相談員等，身近な地域の組織や団体と連携を図り，その人材を活用することでよりさらに充実した家庭教育学級講座を企画立案していくことが今後の課題である。

（３）参加者に関すること

実施校の他学年や実施校以外の保護者にどのように広報していくか。ホームページや電子メールの活用等も考えていきたい。

家庭教育学級講座に参加した保護者が，クラスや学年で学習内容や感想等を発表する場をつくり，関心の薄い保護者へ積極的にアピールすることも効果があるのではないか。

参加してみたいと思わせるような，目玉となる企画を設定することが必要である。

父親や祖父母等，家族全体で家庭教育について考える取り組みを促す手だてにはどのようなものがあるか。

参加者同士のコミュニケーションをもっと広げていくための講座を開発していくことも必要である。

（４）合同家庭教育学級講座に関すること

合同で家庭教育学級を開催した際，初めての試みであったため，企画等については行政側の手厚い補助が必要であった。

多くの方に参加してもらうために，日時，会場，参加対象者等をどう設定するか，また，広報についても課題である。

事例を多く話してもらうためにシンポジストの発言時間を３分に設定した。今回のシンポジストは３名であったので，９０分という限られた時間を考えると，シンポジストの発言をもっと短い時間に設定することにより，講師が持っている豊富な事例を多く発言してもらえると考える。

（５）少人数グループ討議に関すること

少人数グループ討議を実施する際，参加者に見合った複数の講師の手配やグループごとに話し合うことのできる会場の確保が可能か等，事前準備が課題である。

今回の少人数グループ討議で挙がった内容を，次回の家庭教育学級講座の課題として取り上げる等，連続した講座の開発に関する学習プログラムも今後の課題である。

一部の参加者ではあるが，他のグループの討議が気になってしまうこと場面が見られた。もっと広い部屋や思い切って会場を３つに分ける等，場の設定についても今後考慮していきたい。

Ⅶ　研究を振り返って

学習プログラム開発委員会委員長　坂 本　登

過去に，こんにちほど，家庭教育が，社会の重要課題としてクローズアップされた時代はあったでしょうか。

全国の児童相談所における平成 18 年度の虐待相談件数は，平成 2 年当時の 300 倍を超える数値に達しています。また，茨城県水戸生涯学習センターの「教育・子育て電話相談事業」における小学生低学年に関する「習慣・しつけ・育児」相談件数（平成 18 年度）も，前年度に比して大幅に増加しております。

ここに，子育てに関する学習機会の拡充が求められる理由があります。このような学習機会は，通常，家庭教育学級として展開されておりますが，教育委員会や公民館が開設主体となりながらも，学校等に丸投げ委託されて実施されている例が多いこと，実施回数や学習時間数が少ないこと，イベント的に実施されて継続的・発展的な学習となっていないこと，人集めに腐心するあまり何回かに分けて実施される学習内容に関連性・統一性がみられないこと，など数々の問題点が指摘されております。

このため，家庭教育に関する学習プログラムの開発は喫緊の課題となっております。茨城県教育委員会は，家庭教育を現代的課題のひとつに据え，この学習プログラム開発研究を茨城県水戸生涯学習センターに委託しました。これを受けた茨城県水戸生涯学習センターは，家庭教育に関する「学習プログラム開発委員会」を設置し，ここに研究の成果を取りまとめ公表するに至りました。

研究を進めるに当って，学習プログラム開発委員会は，家庭教育学級の学習プログラムを開発するうえでの視点として，とくに「学習テーマの設定」「学習活動の展開」「学級の運営方法」などに着目しました。

「学習テーマの設定」に際しては，客観的で理論的な根拠，親や保護者のニーズ，家庭教育の現実的問題などに対応する必要があることが確認されました。そこで，理念的・客観的な拠りどころは社会教育局長通知「家庭教育学級の開設および運営について」（昭和 46 年 11 月）に，学習ニーズはモデルプログラムを実施する 2 小学校での「保護者アンケート」に，現実的な悩みや問題については茨城県水戸生涯学習センターの「教育・子育て電話相談事業」に，求めることとしました。加えて，それぞれの小学校が独自にかつ継続的に取り組んできた学習テーマについても参酌することとしました。

この結果，このたび設定した学習テーマは，参加者からの異論がなく妥当性が検証された感があります。しかし，子どもも保護者も，もっている性質やニーズは一人ひとり異なります。このため，家庭教育の営みは個別的なものとなり，これを支援するためには多様なメニューが必要とされます。しかし，今次のプログラムの開発研究で照準が当てられたのは，集まって学ぶ集合型学習形態の家庭教育学級のみです。この研究が契機となって，今後，集合型の学習機会はもとより，家庭教育に関する情報提供，相談事業，施設利用など個人学習を支援するプログラムの開発にも取り組まれ，個別のニーズに応える多様な学習メニューを構築されることが期待されます。

「学習活動の展開」については，講義，シンポジウム等の座学が陥りやすい「受け賜り学習」を回避し,「参加型学習」とすることを重視しました。具体的には，モデル学級を「複数会場」で実施したことと，「話し合い学習」の機会を設定したことです。

こうした手法によって，参加者には，いくつかのメリットがもたらされました。たとえば,「複数会場」での展開は関心のある学習テーマ，都合のいい学習日と学習会場などの選択を可能とし,「話し合い学習」は子育て学習に関する疑問や課題とその解決策等について，経験と情報を本音で交流する機会となりました。また，二つの学級による「合同家庭教育学級講座」の機会は，広く本事業の実施校以外にも呼びかけた結果，部外者の眼を意識した学級参加者の学習意欲を高めるという，相乗効果がもたらされました。

しかし，今次の学習では，講義の場合も「話し合い学習」の場合も，講師・助言者に依存的でした。このことは，真の「参加型学習」を実現するうえで，真に成熟した自律的な学習者の輩出が必要であること物語っています。この度の参加者がその先導役になれるよう，関係機関の今後のフォローアップが期待されます。

「学級の運営方法」については,「自由参加」と「自主運営」を基本としました。ここでいう「自由参加」とは，学級の参加者を固定しないことと，実施校以外の保育所，幼稚園，小・中学校の保護者も参加できることとしたことです。この方式の導入は，生涯学習の目標でもある「タイム・フリー」「スペース・フリー」の実現に向けた，ひとつの試みでもありました。これを家庭教育学級で実施したことの意義は，日頃子どもの世話に追われ，子育てに関する学習時間の確保と学習の場へのアクセスに難儀している親の参加を容易にすること，親が今悩んでいることや関心をもっていることに即時的に対応できるところにあります。しかし，こうした方法では，一方で，参加人数の不安定，適切な学習会場の確保，学習集団の編成と運営，学習の継続性や系統性，学習成果の確認などの点で，デメリットが生じることも判明しました。

そして「自主運営」とは，２校それぞれに設置した企画運営委員会による主体的運営を展望したことです。実際に，企画運営委員は，学習のテーマ・内容・方法に関し実施校の保護者のニーズとプログラム開発委員会の意向の調整，開閉会行事の進行，学習グループの編成，話し合い学習の司会などの任に当りました。しかし,「企画運営委員」の自覚は高められましたが，他の参加者にどれほど自主運営の意義と必要性が認識されたかについては検証されておりません。とはいえ，ここで経験した「企画運営委員」たちにとって，引き続き，自主的に企画・運営できる機会が存在することが重要です。このような「学習成果」を活用する場や機会は，家庭教育に関する学習を地域に広げる推進力となるに違いありません。生涯学習を推進する関係機関には，こうした場の設定への積極的な営為が求められます。

家庭教育は，一人ひとりの子と親，個々の家庭に関わるものだけに極めて深遠なものです。加えて,「少子化」や「父親の子育て参加」など，家庭だけでは解決できない問題を内包しております。そのため，最近の社会教育法や教育基本法の改正，各種の答申等によって,「子どもは社会の宝」という考え方にたって，家庭教育をいっそう充実するための支援がきわめて重要性であることが明らかにされております。

本研究の成果がその一助に貢献できるならば幸甚の極みです。

Ⅷ 資料等

資料1

保護者の実態調査の集計　（笠間市立笠間小学校，笠間市立友部小学校）

平成19年5月26日

平成19年度学習プログラム開発事業「モデルとなる家庭教育学級講座」

【家庭での「子育て」や「しつけ」に関するアンケート調査表】

＜アンケート＞　（該当するところに○印をつけてください。）

調査対象	回答	回答率
238名	214名	89.9%

問1　あなたの性別をお知らせください。

イ 女	197名	92%
ア 男	17名	8%

問2　今までに家庭教育学級に参加したことがありますか。

イ 今回始めて参加する	114名	53%
ア 以前参加したことがある	85名	40%
無記入	15名	7%

問3　あなたは、「子育て」や「しつけ」を大切だと思いますか。

ア とても大切だと思う	185名	86%
イ 大切だと思う	29名	14%
ウ あまり大切だと思わない	0名	0%
エ まったく大切だと思わない	0名	0%
オ わからない	0名	0%

問4　「子育て」や「しつけ」で、特に大切だと思うことは何ですか。（複数選択可）

ウ 他人に対する思いやりの心の育て方	204名	95%
ア 基本的生活習慣の定着のさせ方	186名	87%
イ 子どもの自立心の育て方	99名	46%
エ 美しいものを美しいと感じる心の育て方	79名	37%
オ その他	9名	4%
無記入	1名	0%

問5　前項目の問4で、「基本的な生活習慣の定着のさせ方」を選んだ方にお聞きします。　（複数選択可）

イ 元気に「おはよう」や「おやすみなさい」のあいさつができる	168名	90%
ウ 着替えや学校に行く準備、翌日の用意が自分でできる	147名	79%
ア 朝、自分で起き、夜、自分で寝ることができる	107名	58%
エ 家族みんなで食事をとることができる	106名	57%
オ 食べたあと、食器をかたづけることができる	96名	52%
カ その他	10名	5%
無記入	9名	5%

問6　あなたは、「子育て」や「しつけ」に関する情報をどこから、どのような内容を得ていますか。　（複数選択可）

①どこから

ウ 友人・知人	169名	79%
イ 家族・親族	163名	76%
ク 書籍・雑誌	99名	46%
キ テレビ・ラジオ	81名	38%
ア 夫や妻	80名	37%
カ 新聞	68名	32%
ケ 家庭教育学級や研修会・講演会等	43名	20%
オ 回覧板・市町村広報誌	25名	12%
コ インターネット	12名	6%
エ 子育てサークル	8名	4%
サ その他	3名	1%

②どのような内容

イ しつけ	156名	73%
ク 食育や健康	112名	52%
キ 子どもとのコミュニケーション	106名	50%
ア 育児の不安	104名	49%
エ いじめ	60名	28%
ケ 進学や学習塾	30名	14%
オ 虐待	16名	7%
ウ 託児や保育所	15名	7%
カ 子育てサークル	6名	3%
サ その他	5名	2%
コ 職業選択や就職	4名	2%

問7 あなたは「子育て」や「しつけ」に関することで、どのようなところに相談したことがありますか。 （複数選択可）

ウ 家族・親族	158名	74%
ア 夫や妻	135名	63%
イ 友人・知人	103名	48%
エ 幼稚園・保育園・小学校	87名	41%
オ 病院・保健所	18名	8%
カ 福祉事務所	6名	3%
キ 児童相談所	4名	2%
コ 子育てサークル	4名	2%
ケ 電話相談機関	3名	1%
サ その他	2名	1%
ク 教育事務所	0名	0%

問8 「子育て」や「しつけ」に関する学習会があれば、参加されますか。

イ 参加したい	127名	59%
ウ あまり参加したいと思わない	35名	16%
オ わからない	31名	14%
ア とても参加したい	10名	5%
エ 参加したいとは思わない	7名	3%
オ わからない	31名	14%
無記入	3名	1%

問9 「子育て」や「しつけ」に関する学習会に参加しやすい曜日、時間帯についてお聞きします。 （複数選択可）

① 曜日

ア 月～金曜日	131名	61%
イ 土曜日	54名	25%
ウ 日曜日	34名	16%
無記入	8名	4%

② 時間帯（2時間単位）

ア 午前10時～午後12時	132名	62%
イ 午後1時～午後3時	31名	14%
カ 午後6時～午後8時	15名	7%
ウ 午後2時～午後4時	11名	5%
オ 午後4時～午後6時	8名	4%
エ 午後3時～午後5時	7名	3%
無記入	7名	3%
キ その他（ 時～ 時）	1名	0%

資料2

教育・子育て電話相談事業のデータについて

平成18年度教育・子育て電話相談事業概要　№29から抜粋

1　平成18年度　相談の概要

(1)相談件数(3,233件)

(件)

月 / 方法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電　話(昼)	221	203	205	196	97	169	179	173	131	134	143	145	1,996
電　話(夜)	120	121	137	105	81	91	121	113	78	78	92	72	1,209
F　A　X	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電子メール	5	3	2	2	0	1	1	1	2	5	4	2	28
合　　計	346	327	344	303	178	261	301	287	211	217	239	219	3,233

○相談件数とは，教育・子育てに関する相談を受けた件数を示し，実際の電話件数は4,889件である。

○電話(昼)の相談は，9:00から17:00まで。電話(夜)の相談は17:00から24:00まで。

(2)相談内容

(件)

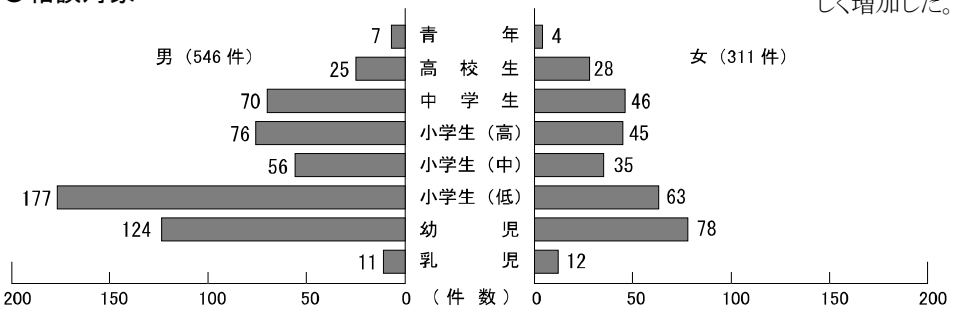
内容 / 方法	習慣・しつけ・育児	学習・進路	交友	いじめ	家族	地域	非行	不登校	学校生活	心身等の障害	健康	性	虐待	その他	合計
電　話(昼)	518	286	136	66	147	44	51	239	215	102	80	32	6	74	1996
電　話(夜)	333	155	91	53	113	21	35	80	169	66	42	22	5	24	1,209
F　A　X	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電子メール	6	1	2	1	0	0	0	7	10	1	0	0	0	0	28
合　　計	857	442	229	120	260	65	86	326	394	169	122	54	11	98	3,233

2　平成18年度　相談内容の傾向

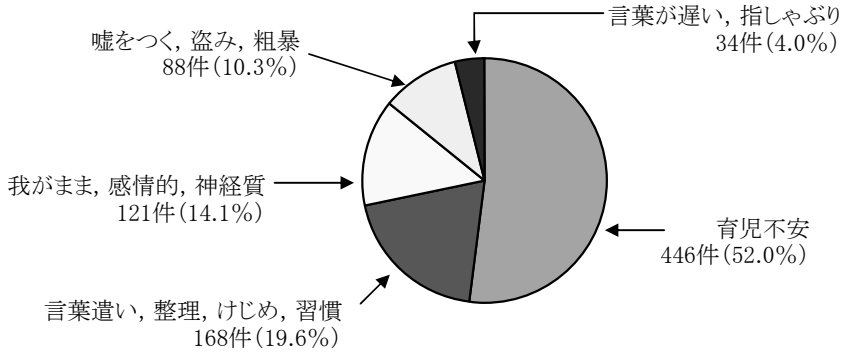
「習慣・しつけ・育児」についての相談」(857件)

○ 昨年度に比して，幼児対象の相談が減少し，小学生(低)の相談が著しく増加した。

●相談対象



●相談内容内訳



資料３

家庭教育学級の開設および運営について（昭和４６年 文部省社会教育局通知）

１　各期による学習内容

（１）乳幼児期

親と子のふれあいを通じて，①情緒の安定をもたせ，②基礎的な生活習慣をしつけ，③自然や生物を愛護する心をつちかい，遊びを通して ④対人関係における自制力や⑤危険から身を守る能力を身につけさせること。

（２）少年期

親と子のふれあいを通じて，子どもの心身の発達に即して，⑥ものの感じ方・考え方の基本を育成し，遊びを通して⑦自律性や協調性をつちかい，⑧健康・安全についての能力を身につけさせること。とくに，この期においては，学校教育や社会教育との関連のなかで，子どもの進路，適性，男女の交際，地域における集団活動等に配慮すること。

（３）青年期

親と子のふれあいを通じて，客観的に自己をみつめる力，敬けんの念，節度ある行動，生活と勤労に対する真剣な態度を身につけさせること。とくに，子どもが成人として独立するために必要な知識・技術を習得させること。

なお，乳児の家庭教育についての学習は，婚前期，新婚期，妊娠期などから準備的に行われるよう配慮すること。

※①～⑧の番号並びに下線は学習プログラム開発委員会で付け加えた。

３　学習分類と学習内容

区分	学習分類	学　習　内　容
乳幼児期	①	情緒の安定をもたせる。
	②	基礎的な生活習慣をしつける。
	③	自然や生物を愛護する心をつちかう。
	④	対人関係における自制力を身につける。
	⑤	危険から身を守る能力を身につける。
少年期	⑥	ものの感じ方・考え方の基本を育成する。
	⑦	自律性や協調性をつちかう。
	⑧	健康・安全についての能力を身につけさせる。

※　家庭教育学級の開設および運営についてをもとに，学習プログラム開発委員会で分類した。

４　留意点

（１）　重点とするのはあくまで少年期であるが，より効果を上げるため，乳幼児期の学習内容を取り入れ，上記８項目の学習分類とした。

（２）　上記の学習分類では，⑤と⑧は同じ健康安全に関するものであるが，発達段階の違いから別項目に分類することとする。

（３）　各項目をバランスよく取り入れた学習プログラムの開発が重要であると考える。

平成１９年度　学習プログラム開発事業
現代的な課題に関する学習機会の提供について（２年次）
「モデルとなる家庭教育学級講座」実践事例集

平成２０年３月発行

編集・発行　　財団法人　茨城県教育財団
茨城県水戸生涯学習センター
〒310-0054 茨城県水戸市愛宕町4－1
ＴＥＬ　０２９－２２８－１３１３
ＦＡＸ　０２９－２２８－１６３３